

シラバス(講義概要等)

【注意事項】

- ① この「シラバス（講義概要等）」にて授業の内容を十分に確認の上、出願する科目についてご検討ください。
- ② シラバスの記載内容については変更される場合があります。
最新のシラバスは、本学ホームページでご確認ください。
- ③ 教室は現在調整中のため、後日お知らせします。
- ④ 出願後に開講曜日・時限が変更される場合があります。その場合、該当科目に出願された方に、個別に連絡します。

静岡文化芸術大学

令和7年度後期 社会人聴講生・科目等履修生 公開科目一覧

科目 コード	講義名称	教員名	曜日	時限	科目区分	社会人聴講生 聴講料（円）	科目等履修生 聴講料（円）
1	地域社会論	船戸 修一	月曜日	1時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
2	美術史（日本・東洋）Ⅱ	片桐 弥生	月曜日	3時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
3	インターフェイスデザインⅠ	宮地 良治	月曜日	3時限	デザイン専門科目	14,800	29,600
4	イタリア文化史	武田 好	月曜日	4時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
5	経済学	鈴木 浩孝	月曜日	4時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
6	ナショナリズム論	徳増 克己	月曜日	5時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
7	青年心理学	高木 邦子	火曜日	1時限	全学科目	14,800	29,600
8	芸術特論D	片桐、藪田	火曜日	1時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
9	デザインマネジメント	中川 晃	火曜日	1時限	デザイン共通科目	14,800	29,600
10	中東現代史	徳増 克己	火曜日	2時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
11	デザインドローイング技法	松田 達	火曜日	2時限	デザイン共通科目	14,800	29,600
12	健康科学	木村 駿介	火曜日	3時限	全学科目	14,800	29,600
13	日本文化史	西田 かほる	火曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
14	音楽史Ⅱ	奥中 康人	火曜日	3時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
15	社会学概論	船戸 修一	火曜日	4時限	全学科目	14,800	29,600
16	日本文学史	二本松 康宏	火曜日	5時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
17	アートマネジメントA	太田 幸治	火曜日	5時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
18	都市経営論	藤井 康幸	水曜日	1時限	文化政策学部科目	14,800	29,600
19	東南アジアの歴史	岡田 建志	水曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
20	西欧・北米文化論	永井 敦子	水曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
21	持続可能な社会	武田 淳	水曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
22	学習指導と学校図書館	林 容子	水曜日	1時限	資格自由科目	14,800	29,600
23	韓国文化史	林 在圭	水曜日	2時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
24	創造都市論	藤井 康幸	水曜日	2時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
25	文化と芸術A	田ノ口 誠悟	水曜日	2時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
26	読書と豊かな人間性	林 容子	水曜日	2時限	資格自由科目	14,800	29,600
27	文化と芸術C	上山 典子	木曜日	2時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
28	アジアビジネス論	兪 嶸	木曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
29	保存と修復	杉山 知太郎	木曜日	3時限	芸術文化学科科目	14,800	29,600
30	中国古典学	石村 貴博	金曜日	1時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
31	産業遺産と産業史	四方田 雅史	金曜日	1時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
32	劇場芸術論	永井 聡子	金曜日	2時限	文化政策学部科目	14,800	29,600
33	地中海地域文化論	中田 健太郎	金曜日	2時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
34	漢文学Ⅱ	石村 貴博	金曜日	2時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
35	Global Issues	Ryan Jack	金曜日	2時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
36	日本経済論	四方田 雅史	金曜日	2時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
37	西欧・北米の歴史	永井 敦子	金曜日	3時限	国際文化学科科目	14,800	29,600
38	地域産業論	鈴木 浩孝	金曜日	3時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
39	マスコミュニケーション論	加藤 裕治	金曜日	3時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
40	建築構造	岩崎 敏之	金曜日	3時限	デザイン学部科目	14,800	29,600
41	グローバルビジネス論	曽根 秀一	金曜日	4時限	文化政策学科科目	14,800	29,600
42	哲学	伊野 連	金曜日	5時限	全学科目	14,800	29,600
43	地域ビジネス論	曽根 秀一	金曜日	5時限	文化政策学科科目	14,800	29,600

※授業時間

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

各科目のシラバス（講義概要）については、大学ホームページ(<https://www.suac.ac.jp/>)の「お知らせ」欄に記載の「令和7年度後期社会人聴講等の募集について」をクリックして、シラバスのPDFファイルをご参照ください。

令和 7 年度後期

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
1		地域社会論	《時限》	地域社会論	船戸 修一	
科目概要	今日の地域社会は、人口の減少高齢化、経済のグローバル化、地方分権化、公共部門の財政悪化等の影響を受け、対応や変貌を余儀なくされている。本科目では、こうした社会的趨勢を踏まえた上で、地域社会（都市、農村、中山間地、限界集落、特定のコミュニティ等）に焦点を当て、地域社会の現状に関して生活・文化面を中心に理解を深めるとともに、地域社会が抱える固有の問題について、その成立背景を含めて考察し、その問題に対する行政・住民の対応の実態や解決のあり方を検討する。					
学修到達目標	地域社会、とりわけ中山間地域（農山村）の現状や課題、その解決策についての理解を深めることを目標とする。中山間地域は、国土の約 7 割を占め、人間の生活に必要な物資（食べ物や材木など）を生産している。浜松市も「平成の大合併」によって市域の約 7 割を中山間地域が占めるようになった。しかし、現在、このような地域は、高齢化による農林業の担い手不足、過疎や限界集落など様々な課題に直面している。この授業では、中山間地域の現状や課題、その解決策を学ぶことによって、地域づくりについての理解を深めることを目標にする。					
授業の方法	授業は原則として講義形式で行う。授業では、配布プリントや資料を使い、地域社会に関連する視聴覚教材も視聴する。毎回授業の理解度を測るための課題レポートも課す。					
授業計画	第 1 回 農山村や中山間地域を学ぶ意義 第 2 回 金の卵と都市農村格差 第 3 回 出稼ぎと農業政策の変化 第 4 回 森林・林業と農山村の変容 第 5 回 高度経済成長と過疎 第 6 回 限界集落とその批判 第 7 回 ソーシャル・キャピタルとしての他出子 第 8 回 田園回帰と若者移住 第 9 回 農村女性と起業 第 10 回 農業の担い手としての高齢者 第 11 回 農業・農村の 6 次産業化 第 12 回 戦後の地域開発とその弊害 第 13 回 三位一体の改革と市町村合併 第 14 回 NIMBY 施設（迷惑施設）と地域社会 第 15 回 農山村再生の戦略と政策				テキスト	テキストは使用しない。資料は授業前に SUAC manaba で公開する。
					参考文献	授業で随時紹介する。
					注意事項	上記でも明示したように、課題レポートおよび期末レポートへの回答は、相当量の文章を記述することになり、授業としてハードである。よって履修条件として「書くこと」を苦にしないことを求める。この点も含め、履修についての詳しい説明は、第 1 回の授業ですするため、必ず出席すること。毎回、課題レポートの作成には 1 時間以上かかるように設計しているため、授業後の復習は 1 時間以上かけることになる。授業の欠席が 5 回を超えた場合、成績評価の対象としない。

令和 7 年度後期

授業時間外の学習	第 1 回 農山村や中山間地域を学ぶ意義 第 2 回 金の卵と都市農村格差 第 3 回 出稼ぎと農業政策の変化 第 4 回 森林・林業と農山村の変容 第 5 回 高度経済成長と過疎 第 6 回 限界集落とその批判 第 7 回 ソーシャル・キャピタルとしての他出子 第 8 回 田園回帰と若者移住 第 9 回 農村女性と起業 第 10 回 農業の担い手としての高齢者 第 11 回 農業・農村の 6 次産業化 第 12 回 戦後の地域開発とその弊害 第 13 回 三位一体の改革と市町村合併 第 14 回 NIMBY 施設(迷惑施設)と地域社会 第 15 回 農山村再生の戦略と政策
評価の方法・基準	平常点(80%)とレポート(20%)で評価する。平常点は、毎回授業後に提出する課題レポートを対象とする。授業内容の理解と考察内容の評価する。課題の字数は 1,600 字以上とする。レポートは、学期末に提出し、与えられた設問に対して授業内容と絡めて考察しているかどうかで評価する。レポートの字数は 4 千字以上とする。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
2	美術史(日本・東洋)Ⅱ	《時限》	美術史(日本・東洋)Ⅱ	片桐 弥生
科目概要	「美術史(日本・東洋)Ⅰ」に引き続き、中世から近世に至る日本美術の主要な作品の画像を見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・ヨーロッパの美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。			
学修到達目標	・室町時代後半から江戸時代までの絵画史の流れを理解し、それぞれの時代の代表的な絵師や作品について、その特色を説明することができる。 ・日本美術は中国や近世ではヨーロッパの美術の影響を受けてきたが、それぞれの時代にどのような影響を受け、そこからどう発展していったのか、日本美術の特性とは何かを考えることができる。 ・作品が生まれた社会背景、思想的背景を理解し、作品と関連づけて説明することができる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 実際にスライド等で作品の画像を多く見ながらすすめる。			
授業計画	①はじめに一前期のまとめ ②雪舟 ③狩野派の登場―正信・元信と筆様制作 ④狩野永徳と大画、長谷川等伯 ⑤狩野探幽―家法一変 ⑥江戸狩野と京狩野 ⑦やまと絵―土佐派 ⑧やまと絵―琳派 ⑨近世初期風俗画 ⑩新しい外来様式Ⅰ―文人画 ⑪新しい外来様式Ⅱ―円山応挙 ⑫新しい外来様式Ⅲ―伊藤若冲 ⑬新しい外来様式Ⅳ―洋風画 ⑭浮世絵Ⅰ―美人画、役者絵 ⑮浮世絵Ⅱ―風景画、まとめ ⑯試験			テキスト なし。プリントを配布する(授業までに manaba にアップロードする)。
				参考文献 授業中に紹介する。
				注意事項 「美術史(日本・東洋)Ⅰ」を受講していることが望ましい。 授業でとりあげる作品の画像は配布しないので、必要であれば各自美術全集などの図版やインターネットの画像等で確認すること。 小レポートで展覧会見学をした場合は、交通費・観覧料は自己負担となる。 授業内で manaba の閲覧を求めることがあるので、情報機器を持参すること(スマートフォンでも可)。 6 回以上欠席した場合、原則として成績評価の対象としない(公欠制度に該当する場合であっても8回以上欠席した場合、成績評価の対象としない)。 授業の配布資料は manaba にアップロードするので、欠席時は manaba を確認すること。

令和7年度後期

授業時間外の学習	①はじめに一前期のまとめ ②雪舟 ③狩野派の登場―正信・元信と筆様制作 ④狩野永徳と大画、長谷川等伯 ⑤狩野探幽一家法一変 ⑥江戸狩野と京狩野 ⑦やまと絵―土佐派 ⑧やまと絵―琳派 ⑨近世初期風俗画 ⑩新しい外来様式Ⅰ―文人画 ⑪新しい外来様式Ⅱ―円山応挙 ⑫新しい外来様式Ⅲ―伊藤若冲 ⑬新しい外来様式Ⅳ―洋風画 ⑭浮世絵Ⅰ―美人画、役者絵 ⑮浮世絵Ⅱ―風景画、まとめ ⑯試験
法・評価の基準	①授業時の課題(10 パーセント)、②日本・東洋美術の展覧会における作品観察、またはインターネット上の指定された高精細画像を観察しての小レポート(30 パーセント)、③学期末試験(60 パーセント)により評価する。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
3	インターフェイスデザインⅠ	《時限》	インターフェイスデザインⅠ	宮地 良治
科目概要	日常生活で用いられる家電製品や通信機器、公共機器の情報化や高機能化が急速に進んでおり、それらの操作方法も大きく変化している。ユーザーがわかりやすく、使いやすい製品機器を提供することがデザイナーにとって重要な課題の一つとなっている。本講義では、具体的な事例を取り上げながら、使いやすいユーザーインターフェイスの実現に必要な要素技術の理解と、それらを活用したデザイン手法の基礎を修得してもらう。			
学修到達目標	・UI デザインを始めとしたインターフェイスの事例や手法を学び、操作デバイス・スイッチ・画面表示などのデザイン表現に必要な知識を身につける ・スマートフォン、タブレット、パソコンなどの情報機器やソフトウェアの画面デザインに重要な、使いやすさ、わかりやすさの表現手法を理解をできるようになる ・UI デザインに必要な UX デザイン開発手法(3C 分析、ペルソナ設定、カスタマージャーニーマップ、ストーリーボードなど)の基礎知識を身につけることができる			
授業の方法	【講義】授業は講義形式で行い、学習内容の理解度を確認する課題を適宜行う。 (1) 具体的事例を取り上げてインターフェースデザインの考え方や基礎知識を学ぶ。 (2) UX 開発手法や UI デザインを理解するための小課題演習を行う。 (3) 講義の進捗にも夜があわせて10週目までに13の小課題、11～15週目で2つの中課題を行う。			
授業計画	①インターフェースデザインとは ③人間工学の知識「エラーの防止」		テキスト	教科書は使用しない。 資料は各回の授業終了後に SUAC manaba で公開する。
	②人間工学の知識「ユーザー別対応」 ④実世界指向インターフェイス「ユビキタス」		参考文献	D.A.ノーマン「誰のためのデザイン？ 増補・改訂版」 (新曜社)ISBN-13：978-4788514348
	⑤実世界指向インターフェイス「ウェアラブル」 ⑦インターフェイスの最新動向「ロボット」 ⑨UIUX 手法「ユーザー/ペルソナ」 ⑪WEB サイトデザインの構成 ⑬UI デザイン課題1「情報設計」 ⑮UI デザイン課題の発表・評価		注意事項	第1回授業から、web ボード「miro」を使って講義を行います。 ノートパソコンを推奨しますが持っていない学生はタブレット端末やスマートフォンでも代用は可能です。 第 11～第 15 回授業では、web アプリ「figma」によるノートパソコンを使用した講義になります。 ノートパソコンを持たない学生に関しては対応しますので、第1回授業後に担当教員に申し出てください。 場合によっては、PC 設備のある教室に変更します。

令和7年度後期

授業時間外の学習	①インターフェースデザインとは ③人間工学の知識「エラーの防止」 ⑤実世界指向インターフェイス「ウェアラブル」 ⑦インターフェイスの最新動向「ロボット」 ⑨UIUX 手法「ユーザー/ペルソナ」 ⑪WEB サイトデザインの構成 ⑬UI デザイン課題1「情報設計」 ⑮UI デザイン課題の発表・評価 ②人間工学の知識「ユーザー別対応」 ④実世界指向インターフェイス「ユビキタス」 ⑥実世界指向インターフェイス「VR/AR」 ⑧UIUX 手法「3C 分析」 ⑩UIUX 手法「カスタマージャーニーマップ」 ⑫WEB サイトデザイン「フォント、アイコン、写真」 ⑭UI デザイン課題2「表現設計」
評価の方法・基準	・講義内課題レポート:60% 期末課題レポート:20% その他20%(授業態度や課題提出回数で評価) ・課題はインターフェースデザイン手法の理解度によって評価します。 ・不可＝インターフェイス手法を理解できていない - 可＝おおよそ理解できている - 良＝良く理解できている - 優＝良く理解した上で講義内課題・期末課題のいずれかが優れていた - 秀＝良く理解した上で講義内課題・期末課題の両方とも優れていた

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
4	イタリア文化史	《時限》	イタリア文化史	武田 好
科目概要	古代からイタリア王国成立までのイタリア文化の特徴を都市文化の観点から考察する。国家統一に至るまでのイタリアの歴史を概観しつつ、特に、建築、美術、音楽、文学の分野に着目し、当時の社会思想を踏まえて理解を深める。デザインやファッション、食住など現代における都市空間と生活文化に関わる事象も視野に入れ、イタリアの文化と社会の特質を学んでいく。			
学修到達目標	イタリアの芸術都市を概観し、都市ごとの文化と芸術についての知識を身につける。都市空間の歴史的・文化的背景の特徴を記念建造物を例に挙げて説明することができる。都市文化を地政学的に把握することによって、美術様式の変遷を論じられるようになる。イタリアの文化と社会について歴史的観点から理解している。イタリア文化史の知識を得ることによって、日本の文化と社会について新たな視点から考えることができる。			
授業の方法	各テーマに沿って講義形式で進めていく。特に、都市文化を美術、文学、オペラ、演劇、時事問題などから読み解き、映像を活用して多角的に学ぶ。文化・芸術の創出と発展について、イタリア北部、中部、南部の相違を時代を追って比較検証しながら理解を深めてゆく。時事的テーマについては、状況に応じて小人数でのディスカッション「グループワーク」を求めることがある。また、コメントペーパーを利用して「リアルタイムアンケート」を行う。講義プリントは事前に manaba コースニュースで配信する。他の関連研究領域において実務経験のある講師による特別講義を予定している。			
授業計画	1. ルネサンスの意義 / 世界遺産について 2. ローマ: 古代ローマ建築 3. ローマ: 初期キリスト教美術 4. ラヴェンナ: ビザンチン美術 5. ピサ: ロマネスク様式 6. シエナ: ゴシック様式 / 都市の伸展 7. シエナ: シエナ派の絵画 8. フィレンツェ: ルネサンス美術 / 都市の繁栄 9. フィレンツェ: メディチ家の役割について		テキスト	manaba で配信された講義プリントを各自プリントアウトし授業で活用すること。なお、授業計画はやむを得ず変更されることがある。
			参考文献	和田忠彦編『イタリア文化 55 のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015)、藤内哲也編著『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』(ミネルヴァ書房、2016)、藤澤房俊著『「イタリア」誕生の物語』(講談社、2012)、武田好著『イタリアオペラに行こう アリアでたどる愛と情熱の世界』(NHK 出版、2010)、『100 分で名著 マキャベリ「君主論」』(NHK 出版、2012)

令和7年度後期

	10. ローマ:バロック美術 / 教皇と対抗宗教改革について 11. ヴェネツィア:共和国の繁栄と斜陽 12 「降誕」 13. シチリアの歴史 13. オペラについて 14. トリノ:サルデーニャ王国 15. 近代国家の形成について:テーマ論述	注意 事項 上の 項目	・原則として、出席が全授業時間の3分の2に満たない履修者については成績評価を行わない。 ・manabaで提出を求めたレポート課題について、締め切り後にe-mailで提出することは原則として認めない。 ・対面授業を休講する場合、オンデマンド授業になることがあるが、その場合は事前に通知する。 ・ヨーロッパ情勢、NATO、G7の報道、ワールドニュースなどを注視し、新聞、ウェブサイト等から積極的にイタリアの情報を得ること(受講希望者が60名を超える場合は抽選になることがあります。ただし、イタリア語履修者を優先します)。 ・留学、語学研修の予定者は前期科目「ルネサンス文化史」とあわせて履修し、イタリア・ヨーロッパについて系統立てて学ぶことを勧める。
授業 時間 外 の 学 習	1. ルネサンスの意義 / 世界遺産について 2. ローマ:古代ローマ建築 3. ローマ:初期キリスト教美術 4. ラヴェンナ:ビザンチン美術 5. ピサ:ロマネスク様式 6. シエナ:ゴシック様式 / 都市の伸展 7. シエナ:シエナ派の絵画 8. フィレンツェ:ルネサンス美術 / 都市の繁栄 9. フィレンツェ:メディチ家の役割について 10. ローマ:バロック美術 / 教皇と対抗宗教改革について 11. ヴェネツィア:共和国の繁栄と斜陽 12 「降誕」 13. シチリアの歴史 13. オペラについて 14. トリノ:サルデーニャ王国 15. 近代国家の形成について:テーマ論述		

令和 7 年度後期

評価の方法・基準	中間レポート(3000 字以上)60% テーマ論述(持ち込み不可)30% 平常点(授業内コメント)10% ・レポートの評価基準:講義内容を十分に理解し、それが提出物に反映されていること。 リテラシー科目で習得したレポート作成法に準じること。 【90～100】論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用が適切かつ充分に行われている。論点に対する記述も優れており、イタリア文化への関心度が高く見受けられる。 【80～89】 論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用が適切に行われている。論点に対する記述も無理がなく、イタリア文化への関心度が高く見受けられる。 【70～79】 論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用が適切に行われている。論点に対する記述もあり、イタリア文化への関心度が見受けられる。 【60～69】 論点(テーマ)の指摘が明確であり、資料の添付・引用および一応の論点に対する記述もある。イタリア文化への関心度がやや低いように見受けられる。 【0～59】 上記に該当しない
-----------------	---

令和 7 年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
5	経済学	《時限》	経済学	鈴木 浩孝
科目概要	この科目は経済学的なものの見方や考え方を会得することを目的とする。ミクロの観点では、需要・供給の関係や合理的行動の理論に基づき、身の回りで起きている現象を主に消費者の立場から考察する。マクロの観点では、GDP 統計のデータに基づく所得形成についての考察や、財政・金融政策の仕組みについての考察を行う。物事の仕組みを「考える」ことに重点を置き、経済事象を理解するのに必要なミクロ経済学・マクロ経済学のコンセプトやロジックを解説する。			
学修到達目標	・需要と供給の考え方にに基づき経済現象の仕組みを理解する力を身に付ける。 ・市場メカニズムにより達成される効率性についての考え方を習得する。 ・市場の失敗時における政府の市場介入の意義を理解する。 ・為替レート、GDP、物価、財政・金融政策についての基本的な考え方を習得する。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 義務教育レベルの算数・数学を理解できていることを前提とした上で、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方を講義する。 manaba を用いた小テストや課題により理解度を確認する。			
授業計画	①イントロダクション： 学習のための準備(算数・数学の復習) ②競争市場と需給の法則： 需要曲線, 供給曲線, 市場均衡 ③需給変化と比較静学(1): 需要の価格弾力性 ④需給変化と比較静学(2): 供給の価格弾力性, 需要の所得弾力性 ⑤消費者・企業の行動と余剰: 限界概念, 消費者余剰, 生産者余剰 ⑥競争市場均衡と効率性: 総余剰, パレート最適, 所得分配 ⑦独占と規制, 寡占市場: 囚人のジレンマ, カルテル ⑧市場の失敗: 外部性, 公共財, 情報の非対称性 ⑨市場介入の経済効果(1): 間接規制			テキスト 井堀利宏『大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる』角川文庫 (2018 年)
				参考文献 清野一治『ミクロ経済学入門』日本評論社 (2006 年), 石田・高屋編『ビジネスを学ぶためのミクロ経済学入門』(2022 年), 篠原・平山・西村『インタラクティブ・エコノミクス』有斐閣 (2003 年), 西村和雄『早わかり経済学入門』東洋経済新報社 (1997 年), 吉本佳生『スタバではグランデを買え! —価格と生活の経済学』筑摩書房 (2012 年) など。

	⑩市場介入の経済効果(2): 価格弾力性と税負担 ⑪国際経済学: 貿易の利益, 比較優位 ⑫GDP, 物価: 名目 GDP, 実質 GDP, GDP デフレーター ⑬均衡国民所得: 有効需要, 45 度線モデル ⑭財政政策, 金融政策(1): 財市場と貨幣市場, 乗数効果 ⑮財政政策, 金融政策(2): 基礎的財政収支, 金融政策	注意講事項の	【出席に関する事項】 ・出席が全授業時間の 3 分の 2 に満たない受講者は成績評価の対象としない。 【履修に備えて行っておくべきこと】 ・義務教育レベルの算数・数学を理解できていない学生は, 必ず自身で学び直し, 第 1 回授業までに克服しておくこと。 ・特に, 算数・数学の本来の意味を理解できないまま機械的な公式暗記に頼ってきた学生は, 意味を理解できるようにしっかり学び直すしておくこと。 ※この授業は, 義務教育レベルの算数・数学の論理思考力さえあれば十分理解できるように, 「経済学」と呼べる授業としては可能な限り易しいレベルに設定している。ただし近年は, 算数の割り算の意味(特に平均, 割合, 変化率についての考え方)から理解できていない学生が非常に多い。当然そのような学生は, 経済学の理解以前の段階で既にこの授業を全く理解できない結果となってしまう。そうならないように, 義務教育レベルの算数・数学は自身で必ず克服しておくこと。
授業時間外の学習	①イントロダクション: 学習のための準備(算数・数学の復習) ②競争市場と需給の法則: 需要曲線, 供給曲線, 市場均衡 ③需給変化と比較静学(1): 需要の価格弾力性 ④需給変化と比較静学(2): 供給の価格弾力性, 需要の所得弾力性 ⑤消費者・企業の行動と余剰: 限界概念, 消費者余剰, 生産者余剰 ⑥競争市場均衡と効率性: 総余剰, パレート最適, 所得分配 ⑦独占と規制, 寡占市場: 囚人のジレンマ, カルテル ⑧市場の失敗: 外部性, 公共財, 情報の非対称性 ⑨市場介入の経済効果(1): 間接規制 ⑩市場介入の経済効果(2): 価格弾力性と税負担 ⑪国際経済学: 貿易の利益, 比較優位 ⑫GDP, 物価: 名目 GDP, 実質 GDP, GDP デフレーター ⑬均衡国民所得: 有効需要, 45 度線モデル ⑭財政政策, 金融政策(1): 財市場と貨幣市場, 乗数効果 ⑮財政政策, 金融政策(2): 基礎的財政収支, 金融政策		
法・基準 評価の方	・小テストまたは課題:45%(初回は算数範囲からの小テストを行う。その後はミクロ経済学範囲のテーマごとに, 小テストを行うかまたは課題を提示する。約 4~6%/回)。 ・期末テスト:50% ・その他:5%(授業における口頭での問いに対する回答等の積極性)。		

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
6	ナショナルリズム論	《時限》	ナショナリズム論	徳増 克己
科目概要	近代以降の世界の姿を知る上で、nation(民族/国民)への理解は欠かせない。本科目では手始めに簡単な理論的導入を施した上で、多民族状況と格闘するべく多文化共生的な政策を推し進めながらも結局はいくつもの国民国家に分裂する形で崩壊するに至った複数の多民族国家を事例として取り上げ、行政上の枠組の変遷や言語空間の変容が民族および民族問題の形成に及ぼした影響を論じることを通じて、nationを固定的な所与のものとする見方を再考する。			
学修到達目標	・nationalism やその前提となる nation について近代社会への移行過程で出現した現象として冷静に捉えることができる。 ・「方言」と「言語」の区別は相対的・流動的なものであることを説明できる。 ・近代主義かつ構築主義の立場に立つE・ゲルナーやA・アンダーソンのネイション形成に関する理論の骨子を説明できる。 ・nation、ethnic group、国民、民族などの用語がどう使い分けされることが多いか説明できる。 ・nation は固定的・不変的なものではなく流動的・可変的なものであること、人々の周囲の環境への適応や反発を通じて形成・変容するものであること、そうした環境のうち特に国制や政策が大きな意味を持つことを理解し、論じることができる。 ・近代ハプスブルク帝国の国制の変遷とそれをもたらした事情、その下でのさまざまな〈国民体 Nationalität〉の形成と変容について説明することができる。 ・共産主義者のイデオロギーとその時々との状況とのせめぎ合いの下でソ連の民族政策が変容し、そのことが諸民族のあり方に変容をもたらしたことを説明することができる。 ・以上を踏まえて、多文化共生社会の建設・維持は容易ならざることが理解できる。			
授業の方法	・授業は原則として講義形式で行なう。 ・第2回の授業に限り事前の課題に関して受講者各自(大人数でない限り全員)の考えを口頭で簡単に説明してもらおう。(「対話型授業1」) ・それ以外の回については、「事前学習型授業」をとる機会がある。(「授業時間外の学習」欄を参照のこと)			
授業計画	① ガイダンス(授業の狙いとすすめ方に関する説明)／この科目で伝えたいことの骨子 ②「独自のことば」とは何か:言語と方言の違い ③ 集団的な identity とその一種としての nation 概念の検討／nation に関する代表的な研究(1):E・ゲルナー『民族とナショナリズム』における産業化の議論	テキスト	特に指定はしないが、 ・地歴高等地図―現代世界とその歴史的背景/2012 年/帝国書院/税込 1760 円/ISBN9784807165919 など東欧～旧ソ連地域に詳しい地図帳を座右において適宜参照すること。	

	④ nation に関する代表的な研究(2):B・アンダーソン『想像の共同体』における言語と出版資本主義にまつわる議論 ⑤ nation に関する代表的な研究(3):B・アンダーソン『想像の共同体』における官僚制と教育制度が支える〈巡礼圏〉の議論／ナショナリズムと関連の深い用語・概念の紹介と整理 ⑥ 近代ハプスブルク帝国史をみる3つの視点と前史 ⑦ 啓蒙専制君主による「上からの革命」と諸領邦再編の成否 ⑧ 愛邦主義の発生～三月前期における諸〈国民(体)〉の形成 ⑨ 〈諸国民の春〉から〈新絶対主義〉へ ⑩ 〈アウスグライヒ〉体制下の民族問題の展開 ⑪ ソ連史をみる3つの視点と前史 ⑫ ロシア革命とソ連邦の形成 ⑬ 〈コレニザーツィヤ〉積極推進期の民族政策 ⑭ スターリン独裁体制からブレジネフ書記長の「停滞の時代」へ ⑮ ペレストロイカとソ連の解体	参考文献 この分野の古典下記2点は自発的に読むことを勧める。 ・定本 想像の共同体/B・アンダーソン著/2009 年/書籍工房早山/税込 2200 円/ISBN 9784904701089 ・民族とナショナリズム/E・ゲルナー著/2000 年/岩波書店/税込 2970 円/ISBN9784000021968 入門書として、 ・民族とネイション/塩川伸明著/2008 年/岩波書店/税込 946 円/ISBN9784004311560 対象地域の図書として、 ・ハプスブルク帝国/岩崎周一著/2017 年/講談社/税込 946 円/ISBN 9784062884426 ・ハプスブルク君主国 1765-1918/R・オーキー著/2010 年/NTT出版/在庫切れ(本学蔵書あり) ・多民族国家ソ連の興亡 I /塩川伸明著/2021 年/岩波書店/OD 税込 7700 円/ISBN9784007310867 ・同 II /同著/2021 年/岩波書店/OD 税込 8250 円/ISBN9784007310782 ・アフターマティヴ・アクションの帝国/T・マーチン著/2011 年/明石書店/税込 8250 円/ISBN9784750333519 注意講事項 ・受講に際して、高校世界史の西洋史(ロシア史を含む)の近世以降の部分をごとと復習しておくこと。 ・説明済みの事柄は身につけているという前提で講義を行なうので、毎週念入りに復習すること。その際には、当事者を取り巻く国制や政策の変遷とそれに対する当事者による対応に重点をおいて理解に努めること。 ・2年次配当の「近現代の中東A」「同B」「中東現代史」の3科目は、この科目で扱うアンダーソンやゲルナーらの nation の形成に関する一般的な議論にある程度は馴染んでいるという前提で開講される。 ・欠席3回までは減点なく許容するが、4回目と5回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が5回を超えた者は単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。
--	---	---

令和7年度後期

授業時間外の学習	① ガイダンス(授業の狙いとすすめ方に関する説明)／この科目で伝えたいことの骨子 ② 「独自のことば」とは何か:言語と方言の違い ③ 集団的な identity とその一種としての nation 概念の検討／nation に関する代表的な研究(1):E・ゲルナー『民族とナショナリズム』における産業化の議論 ④ nation に関する代表的な研究(2):B・アンダーソン『想像の共同体』における言語と出版資本主義にまつわる議論 ⑤ nation に関する代表的な研究(3):B・アンダーソン『想像の共同体』における官僚制と教育制度が支える〈巡礼圏〉の議論／ナショナリズムと関連の深い用語・概念の紹介と整理 ⑥ 近代ハプスブルク帝国史をみる3つの視点と前史 ⑦ 啓蒙専制君主による「上からの革命」と諸領邦再編の成否 ⑧ 愛邦主義の発生～三月前期における諸〈国民(体)〉の形成 ⑨ 〈諸国民の春〉から〈新絶対主義〉へ ⑩ 〈アウスグライヒ〉体制下の民族問題の展開 ⑪ ソ連史をみる3つの視点と前史 ⑫ ロシア革命とソ連邦の形成 ⑬ 〈コレニザーツィヤ〉積極推進期の民族政策 ⑭ スターリン独裁体制からブレジネフ書記長の「停滞の時代」へ ⑮ ペレストロイカとソ連の解体
法・基準 評価の方	・2回分のレジュメ課題:40%(各 20%) ・期末レポート:60% ・第2回授業時の事前課題に取り組まなかった者についてはマイナス5点の評価。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
7	青年心理学	《時限》	青年心理学	高木 邦子
科目概要	青年期の発達心理学的特徴の理解を目的とする。青年期は前期(思春期)、中期(高校生)、後期(大学生および就職まで)と大きく分けられるが、この科目ではまず、思春期以降の青年中期の心理的特徴を中心に講義し、そこで得た知識をもとに自身の経験を理解できるようにする。さらに、現在青年期後期にある自分自身や友人の心理的な側面について発達の視点から考察できるようになることを目指す。			
学修到達目標	青年前期(思春期)、中期(高校生)、後期(大学生および就職まで)について発達心理学の視点から学び、以下に到達することを目的とする。 (1) 青年心理学の知識をもとに青年前期および中期青年期の特徴を説明できる (2) 青年心理学の知識にもとづき対象理解・考察ができる (3) 自身の中学・高校時代を振り返り、また現在の自身の状況を青年心理学的視点から考察できる			
授業の方法	・授業は講義形式を中心に進める。 ・講義の一部として全ての履修者に青年心理学に関するテーマについてのプレゼンテーション(PowerPoint)を作成してもらう。履修者数によっては何人かに全体の前でプレゼンしていただく。 ・自身の経験や周囲の仲間の様子などについて、周囲の人と話をしたり(対話型授業2)、履修者に発言を求めたりする(対話型授業1)ほか、ミニレポートで報告を求めることもある。 ・manaba を介した小テストやミニレポートによる理解確認を定期的実施する。			
授業計画	① 青年期とはどのような時期か 青年観の変遷 ② 発達理論における「青年期」 ③ エリクソンの「モラトリアム」と小此木の「モラトリアム」 ④ 青年期の自己概念 ⑤ 反抗期と自立 ⑥ 青年期の孤独感・有能感と劣等感 ⑦ アイデンティティの確立と影響要因 ⑧ 友人関係の発達の变化 青年期の友人関係 ⑨ 青年期の恋愛 ⑩ 青年期の親子関係 ⑪ 時間的見通しとアイデンティティ確立 ⑫ ギャップ・イヤーと役割実験 ⑬ 就職活動とアイデンティティ確立 ⑭ キャリア選択に必要な力: プランド・ハプンスタンスとキャリア・アンカー ⑮ 青年期の臨床的問題 期末テスト			テキスト ・使用しない。必要に応じて配布プリントを用いる。
				参考文献 ・エピソードでつかむ青年心理学 大野久 ミネルヴァ書房 (ISBN-10: 4623057372)
				注意講事項 ・原則 BYOD で授業を行う。各自デバイスを持参すること。 ・レジュメは manaba で共有する。 ・5回以上の自己都合による欠席は成績評価の対象外とする。ただし感染症や忌引き等(自己都合以外)で欠席した場合は、その証明の提示があれば「欠席」扱いにはしない。 ・授業の展開によっては授業計画の変更もある。 ・教職課程の資格自由科目でもあるため、中・高生や教師の話にしばしば言及することは理解いただきたい。

令和7年度後期

授業時間外の学習	① 青年期とはどのような時期か 青年観の変遷 ② 発達理論における「青年期」 ③ エリクソンの「モラトリアム」と小此木の「モラトリアム」 ④ 青年期の自己概念 ⑤ 反抗期と自立 ⑥ 青年期の孤独感・有能感と劣等感 ⑦ アイデンティティの確立と影響要因 ⑧ 友人関係の発達的变化 青年期の友人関係 ⑨ 青年期の恋愛 ⑩ 青年期の親子関係 ⑪ 時間的見通しとアイデンティティ確立 ⑫ ギャップ・イヤーと役割実験 ⑬ 就職活動とアイデンティティ確立 ⑭ キャリア選択に必要な力:ブランド・ハプンスタンスとキャリア・アンカー ⑮ 青年期の臨床的問題 期末テスト
法・基準 評価の方	・小テスト(5 回)やミニレポート(2 回)の得点合計(50%), プレゼンの得点(20%), 期末テスト(30%)で評価する。プレゼンを前で行った者には, その質に応じて加点あり。 ・期末テストは持ち込み不可で紙媒体で実施する。 ・授業の進め方によっては小テストやミニレポートの回数が変更となることがある。

令和 7 年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
8	芸術特論D	《時限》	芸術特論D	片桐 弥生
科目概要	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などを理論と実際の視点から取り上げ、考察する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域、社会や時代の要請に応じた領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。			
学修到達目標	・近代の日本絵画史の流れを理解し、主要な作家・作品の特色、位置づけを説明できるようになる。 ・いわゆる「日本画」「洋画」の両側面から、近代の日本絵画が西洋絵画の影響をいかに受け、同時に江戸時代までの伝統をいかに継承しているか、論じられるようになる。 ・近代において、美術教育、美術館、展覧会といった美術にかかわる新しいシステムがどのようにつくられたか理解し、これらが現代にどうつながっているか、歴史を踏まえて考えることができる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 スライド等で作品の画像を見ながら進める。 第 1 回から 8 回は「日本画」を中心に片桐、第 9 回から 15 回は「洋画」を中心に藪田が担当するオムニバス形式で行う。 なお各回「小レポート」や「コメントペーパー」の提出により、授業内容の確認と深化を求める。次回授業においてフィードバックを行う。			
授業計画	近代(明治～)の日本絵画が西洋絵画の流入によりどのように変化したか、いわゆる「日本画」「洋画」の両側面から検討する。また、美術教育、美術館、展覧会といった美術に関わる新しいシステムがいかに生まれ発展したのかにも言及する。 1, ガイダンス(片桐、藪田)、洋画と日本画(片桐) 2, 江戸時代後期から明治へ(片桐) 3, 狩野芳崖とフェノロサ(片桐)	テキスト	なし。プリント配布。あわせて manaba で公開する。	
		参考文献	授業中に紹介する。	

令和7年度後期

	4, 横山大観、菱田春草と朦朧体(片桐) 5, 京都画壇の伝統と革新―竹内栖鳳(片桐) 6, 展覧会の時代(片桐) 7, 東京、京都の新しい日本画―速水御舟と土田麦僊(片桐) 8, 描かれた女性たち―美人画とは何か(片桐) 9, 幕末の洋画研究と光線画・石版画 蕃書調所・内国勸業博覧会と博物館(薮田) 10, 工部美術学校と洋画家の欧行 お雇い外国人(フォンタネージ・ラグーザ)(薮田) 11, 黒田清輝と東京美術学校 白馬会と構想画 万博への参加(薮田) 12, 風景画の成立 名所絵と真景図・水彩画・新版画(薮田) 13, スードの成立 裸体画論争・日本的スードの模索(薮田) 14, モダニズムの展開 印象派・フォーヴィスム 草土社・1930 年協会・九室会(薮田) 15, 戦争と美術 日清・日露戦争から太平洋戦争記録画(薮田)	受講上の 注意事項	日頃から美術館に足を運び、美術作品を鑑賞する機会を持つこと。 授業で取り上げた作品の画像は配布しないので、各自美術全集の図版やインターネットの画像等で確認すること。 授業内で manaba の閲覧を求めることがあるので、情報機器を持参すること(スマートフォンでも可)。 6 回以上欠席した場合、原則として成績評価の対象としない(公欠制度に該当する場合であっても8回以上欠席した場合、成績評価の対象としない)。 授業の配布資料は manaba にアップロードするので、欠席時は manaba を確認すること。
授業時間外の学習	近代(明治～)の日本絵画が西洋絵画の流入によりどのように変化したか、いわゆる「日本画」「洋画」の両側面から検討する。また、美術教育、美術館、展覧会といった美術に関わる新しいシステムがいかにより生まれ発展したのかにも言及する。 1, ガイダンス(片桐、薮田)、洋画と日本画(片桐) 2, 江戸時代後期から明治へ(片桐) 3, 狩野芳崖とフェノロサ(片桐) 4, 横山大観、菱田春草と朦朧体(片桐) 5, 京都画壇の伝統と革新―竹内栖鳳(片桐) 6, 展覧会の時代(片桐) 7, 東京、京都の新しい日本画―速水御舟と土田麦僊(片桐) 8, 描かれた女性たち―美人画とは何か(片桐) 9, 幕末の洋画研究と光線画・石版画 蕃書調所・内国勸業博覧会と博物館(薮田) 10, 工部美術学校と洋画家の欧行 お雇い外国人(フォンタネージ・ラグーザ)(薮田) 11, 黒田清輝と東京美術学校 白馬会と構想画 万博への参加(薮田) 12, 風景画の成立 名所絵と真景図・水彩画・新版画(薮田) 13, スードの成立 裸体画論争・日本的スードの模索(薮田) 14, モダニズムの展開 印象派・フォーヴィスム 草土社・1930 年協会・九室会(薮田) 15, 戦争と美術 日清・日露戦争から太平洋戦争記録画(薮田)		

令和 7 年度後期

評価の方法・基準	片桐 50 パーセント、薮田 50 パーセント 授業時の課題・コメントペーパー(10 パーセント)と最終レポート(40 パーセント)の総合点。(片桐) 片桐の最終レポートは 8 回目の授業終了時に課す。 授業時の課題・コメントペーパー(10 パーセント)と最終レポート(40 パーセント)の総合点。(薮田) ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。
----------	---

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
9	デザインマネジメント	《時限》	デザインマネジメント	中川 晃
科目概要	現代社会におけるデザインの果たす役割について、消費者の動向や企業の活動実態を事例として取り上げ、デザインマネジメントの視点から製品の企画、開発、設計、デザイン、生産から販売活動に至るまでのトータルなプロセスとデザイン組織の管理、意思決定、および評価の構造を学習する。それにより、拡大するデザイン活動とその対象領域を把握し、ビジネスにおける新たな価値創造を実現するための、戦略的なデザインマネジメントの重要性について理解し、考察する力を身につける。			
学修到達目標	① デザインマネジメントの定義・概要を理解し、論じられるようになる。 ② デザイン経営の定義・概要を理解し、論じられるようになる。 ③ 授業内の課題において、デザインマネジメントの知識を用いて作成出来るようになる。			
授業の方法	本講義は「講義形式」にて行う。また、学習における理解度の確認、理解の促進をするために「リアクションペーパー(各回)、課題(3 回)、レポート(1 回)」を課す。講義は着実な理解を得るために、基本から応用への段階性を採用し三部構成とする。第一部では基本的知識、並び簡易なケースを理解する。第二部では応用ケースの分析を通じて理解を深める。第三部では自己の専門分野に活用する手法を学ぶ。各回はデザインマネジメントを中心に添え、同時にデザイン経営にも触れながら進行する。			
授業計画	第1回	デザイン、デザインマネジメントとは	テキスト	テキストは使用しない。
	第2回	case①の紹介と分析 新製品開発における case		
	第3回	case②の紹介と分析 新ブランド開発における case		
	第4回	case③の紹介と分析 組織、コンセプト設定における case		
	第5回	case④の紹介と分析 自動車産業における case		
	第6回	課題①フィードバック 身近におけるデザインマネジメントとは	参考文献	授業内で適宜紹介を行う。
	第7回	デザイン経営とは、ケース④の紹介と分析 アパレル業界における case		
	第8回	case⑤の紹介と分析 小売業界における case		
	第9回	case⑥の紹介と分析 自動車業界における case		
	第10回	組織文化・風土、センスメイク、CSV ほか		
	第11回	課題②フィードバック 企業のデザインマネジメントをリサーチする	受講事項の注意	・進捗状況により授業内容を一部変更する可能性がある。 ・本講義では情報端末の持参は必須としない。 ・6 回以上の欠席は成績評価の対象としない。
	第12回	case⑧の紹介と分析 地域における case		
	第13回	case⑨の紹介と分析 未来における case		
	第14回	課題③フィードバック 未来に向けたデザインマネジメント、デザイン系への提案		
	第15回	デザインマネジメントまとめ		

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回 デザイン、デザインマネジメントとは 第2回 case①の紹介と分析 新製品開発における case 第3回 case②の紹介と分析 新ブランド開発における case 第4回 case③の紹介と分析 組織、コンセプト設定における case 第5回 case④の紹介と分析 自動車産業における case 第6回 課題①フィードバック 身近におけるデザインマネジメントとは 第7回 デザイン経営とは、ケース④の紹介と分析 アパレル業界における case 第8回 case⑤の紹介と分析 小売業界における case 第9回 case⑥の紹介と分析 自動車業界における case 第10回 組織文化・風土、センスメイク、CSV ほか 第11回 課題②フィードバック 企業のデザインマネジメントをリサーチする 第12回 case⑧の紹介と分析 地域における case 第13回 case⑨の紹介と分析 未来における case 第14回 課題③フィードバック 未来に向けたデザインマネジメント、デザイン系への提案 第15回 デザインマネジメントまとめ
法・評価の基準	3つの課題(各 20%)、期末レポート(40%)にて成績評価を行う。

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
10	中東現代史	《時限》	中東現代史	徳増 克己
科目概要	主としてオスマン帝国解体後の時代に比重を置いて、世俗主義的ナショナリズムを建国の理念とする共和制の非産油国トルコと真正のイスラーム国家を標榜する君主制の産油国サウディアラビアという対照的な性格の両国およびそれらの中間的存在ともいうべきエジプトのスナ派ムスリムの3つの国の歴史を比較検討する。中東地域では、20 世紀中葉までに反帝国主義を掲げ「上からの近代化」を図る多分に強権的な民族主義政権が相次いで成立した。これら政権の行き詰まりはオルタナティブとしてのイスラーム主義の復興をもたらすことになった。			
学修到達目標	・トルコ(デュルキエ)・サウディアラビア・エジプトという、いずれもスナ派ムスリムが多数を占めるポスト・オスマン国家3カ国が、政治体制を支える正統性 legitimacy の面で大きく性格を異にする国であることが説明できる。 ・第一次世界大戦後、トルコ共和国がラーイクリク(世俗主義)とトルコ・ナショナリズムを国家理念として建国されることになった背景・経緯を説明できる。 ・20 世紀中におけるトルコ共和国の建国の理念がもたらした抑圧への挑戦の試みやそれを受けて生じた理念の変容について説明できる。 ・サウディアラビア王国が 18 世紀中葉の〈ディルイーヤの盟約〉に基づいて「真正のイスラーム国家」たることを建国の理念に据えていることの意義について論じることができる。 ・サウード王家の権力保持と〈ディルイーヤの盟約〉以来の建国の理念との間で生じた矛盾が石油収入増大による社会の変容といっそうの軋轢を生じてきたことを論じることができる。 ・19 世紀前半におけるムハンマド・アリー統治下でのエジプトの近代化の特徴と強国化の挫折の意義について説明できる。 ・19 世紀後半以降のエジプトの従属化・植民地化と、反英運動と連動したエジプト・ナショナリズムの形成について説明できる。 ・ナセル登場以降の軍人主導体制の確立とアラブ民族主義の一時の興隆とそこからの後退の背景・経緯について説明できる。			
授業の方法	・「授業計画」に基づいて講義形式で行なう。			
授業計画	① ガイダンス／第1次世界大戦とオスマン帝国の解体 ② ムスタファ・ケマル(アタチュルク)の台頭とトルコ共和国の成立 ③ ケマリスト体制下における「上からの革命」 ④ 複数政党制への移行とメンデレス民主党政権の 10 年		テキスト	いわゆる「テキスト」ではないが、 ・グローバルマッフル世界地図帳/2023 年/昭文社/税込 2090 円 /ISBN9784398201072 などの中東地域が詳しい地図帳を常時参照すること。

	⑤ 第2共和政期の政治的自由と混乱 ⑥ 1980年クーデタ以後の「イスラーム復興」現象 ⑦ ワッハーブ運動の創始とサウード家国家の勃興 ⑧ サウディアラビア王国の成立 ⑨ 石油開発と王国の変貌:石油収入の増大と米国との同盟 ⑩ 20世紀末サウディアラビアにおけるイスラーム主義の拡大 ⑪ 19世紀初頭におけるムハンマド・アリー朝の成立と膨張 ⑫ エジプトの「植民地化」:ムハンマド・アリー朝の従属化 ⑬ エジプト・ナショナリズム(ワタニーヤ)の発展 ⑭ エジプト革命(七月革命)とナーセル政権:アラブ社会主義の栄光と挫折 ⑮ サードとムバーラクの時代:経済の自由化とイスラーム主義の復調 ⑯ 予備日(おそらく補講を実施することになる) ※「授業の方法」欄にも記したように、受講希望者の予備知識の状況によっては授業計画を大幅に変更する可能性があるので、関心のある学生には初回の授業に必ず出席することを求める。	参考文献	・トルコ近現代史/新井政美著/2001年/みすず書房/税込 4950円/ISBN9784622033882 ・イスラームと近代化ー共和国トルコの苦悩/新井政美編著/2013年/講談社/税込 1595円(Kindle版) ・トルコ現代史/今井宏平著/2017年/中央公論新社/税込 990円/ISBN9784121024152 ・サウディアラビア/森伸生著/2014年/山川出版社/税込 1320円/ISBN9784634474796 ・サウジアラビア/保坂修司著/2005年/岩波書店//在庫切れ(本学蔵書あり) ・サウジアラビア/高尾賢一郎著/2021年/中央公論新社/税込 902円/ISBN9784121026705 ・新版 エジプト近現代史/山口直彦著/2011年/明石書店/税込 5280円/ISBN9784750334707 ・ムハンマド・アリー/加藤博著/2013年/山川出版社/税込 880円/ISBN9784634350670 ・エジプト 岐路に立つ大国ーナセルからアラブ革命まで/ターレク・オスマーン著/2011年/青土社/税込 3080円/ISBN9784791766307 ・「イスラーム概論」で説明済みのスンナ派イスラームに関する基礎知識はおおよそ身につけているもという前提で講義する。該当しない者で受講を希望する者は事前に教員に申し出ること(メール連絡でも可)。 ・「近現代の中東B」のはじめの方で説明したジハードや〈イスラームの家〉にまつわる政治理論について学習済みであることが望ましい。 ・「ナショナリズム論」で扱ったアンダーソンやゲルナーらの nation 形成に関わる理論に馴染みのあることが望ましい。 ・2年次配当の「近現代の中東A」「同B」「中東現代史」の3科目は、この科目で扱うアンダーソンやゲルナーらの nation の形成に関する一般的な議論にある程度は馴染んでいるという前提で開講される。 ・欠席3回までは減点なく許容するが、4回目と5回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が5回を超えた者は単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。
--	--	-------------	--

令和7年度後期

授業時間外の学習	① ガイダンス／第1次世界大戦とオスマン帝国の解体 ② ムスタファ・ケマル(アタテュルク)の台頭とトルコ共和国の成立 ③ ケマリスト体制下における「上からの革命」 ④ 複数政党制への移行とメンデレス民主党政権の10年 ⑤ 第2共和政期の政治的自由と混乱 ⑥ 1980年クーデタ以後の「イスラーム復興」現象 ⑦ ワッハーブ運動の創始とサウード家国家の勃興 ⑧ サウディアラビア王国の成立 ⑨ 石油開発と王国の変貌:石油収入の増大と米国との同盟 ⑩ 20世紀末サウディアラビアにおけるイスラーム主義の拡大 ⑪ 19世紀初頭におけるムハンマド・アリー朝の成立と膨張 ⑫ エジプトの「植民地化」:ムハンマド・アリー朝の従属化 ⑬ エジプト・ナショナリズム(ワタニーヤ)の発展 ⑭ エジプト革命(七月革命)とナーセル政権:アラブ社会主義の栄光と挫折 ⑮ サダーとムバーラクの時代:経済の自由化とイスラーム主義の復調 ⑯ 予備日(おそらく補講を実施することになる) ※「授業の方法」欄にも記したように、受講希望者の予備知識の状況によっては授業計画を大幅に変更する可能性があるので、関心のある学生には初回の授業に必ず出席することを求める。
法・基準 評価の方	・拙稿に関するコメント:5% ・4回分のレジュメ課題:52%(各13%) ・期末レポート:43%

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
11		デザインドローイング技法	《時限》	デザインドローイング技法		松田 達	
科目概要	空間デザインの作品表現に関わる基本的な知識と技術を学ぶ。設計課題やデザインコンペの作品制作に関わるプレゼンテーションについて、事例研究と実践的試行を通じて修得する。コンセプト表現や図面ドローイング、スケッチ、模型表現等基礎的な技法を修得するとともにその表現の可能性を理解し、説得力のあるコミュニケーションを実現する、作品表現に適した豊かな表現力を身につけることを目標とする。						
学修到達目標	現代の都市建築空間を読み取り、空間的な課題を発見し、空間デザインの提案を行うための基本的なスケッチを行い、ドローイング・図面などで表現し、プレゼンテーションする技術を身につける。またチーム作業では、チームに貢献しながら作業を進めることができる。 a. 現代の都市建築空間を実際に歩きながら、そのなかの空間的な課題を発見することができる。(技能) b. 空間デザインの提案を行うための基本的なスケッチを行い、ドローイング・図面などで表現し、プレゼンテーションを行うことができる(技能) c. 複数人での共同作業において、自らの役割を理解し、チームの作業に貢献できる(態度・志向性) d. 授業に自ら積極的に参加し、また最終成果物ができるまで、手を抜かずに継続的に作業に貢献することができる(態度・志向性)						
授業の方法	・授業は各回、主に最初に講義形式で行い、その後、演習形式で行う。 ・街の課題を解決するような空間デザインの提案を行い、手描きスケッチ、図面、ドローイング、ダイアグラムなどの作成を通して空間デザインの基礎を学ぶ。 ・授業では最終的にそれらの内容を成果物としてまとめ、全員で一冊の冊子を制作する。 ・授業は毎年大きなテーマが与えられ、そこから解決すべき都市的課題を教員の指導のもと発見し、その課題を解決する「PBL (Problem-based Learning)」形式で行う。 ・基本的に、第2回に「フィールドワーク」を行う。 ・授業の大部分で「グループワーク」を行う。 ・参考書籍をもとに1人1冊担当書籍を決め、提案に活かすとともに本の内容を紹介的にまとめる。 ・第5回で中間講評会、第9回で講評会を行う。なお、第9回ではゲスト講師を招いて、担当教員とともに講評する予定である。						
授業計画	① イントロダクション、課題発表、対象地域のリサーチ ② フィールドワーク(浜松中心部の探索)(グループ結成) ③ コンセプトの検討1(手描きスケッチについて)				テキスト	・『街ブランディング』(過去年度私家版冊子) ・その他、授業内で適宜配布します	

令和7年度後期

	④ コンセプトの検討 2(透視図と消失点について) ⑤ 中間発表、フィードバック ⑥ 空間的提案の検討 1(着色と構図について) ⑦ 空間的提案の検討 2(ダイアグラムの作成について) ⑧ 空間的提案の検討 3(プレゼン技術について) ⑨ 講評会、フィードバック ⑩ 冊子制作の説明、担当決め(構成について) ⑪ 成果物の制作 1(冊子制作会議) ⑫ 成果物の制作 2(完成版提出) ⑬ 成果物の制作 3(ブラッシュアップ・製本) ⑭ 成果物への評価、反省、フィードバック、微調整 ⑮ 総括、冊子の完成	参考文献 ○都市・街・建築・空間に関するもの 『タクティカル・アーバンイズム』(泉山墨威、西田司ほか著、学芸出版社) 『プレイスメイキング』(園田聡著、学芸出版社) 『パブリックライフ学入門』(ヤン・ゲール、ビアギッテ・スヴァアほか著、鹿島出版会) 『シビックプライド』(伊藤香織、紫牟田伸子監修、宣伝会議) 『商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道』(新雅史著、光文社) ○プレゼンテーションに関するもの 『卒業設計日本一決定戦 official book』(各年度のものがあります) 『歴史的空間再編コンペティション』(各年度のものがあります) 『図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン』(坂牛卓、平瀬有人、中野豪雄著、鹿島出版会) ○ドローイングに関するもの 『建物&街角スケッチパース』(マシュー・ブレイム、森屋利夫著、マール社) 『旅の時短スケッチ』(あべまりえ著、ビー・エヌ・エヌ新社) ○その他 『建築フィールドワークの系譜』(日本建築学会編、昭和堂) 『ようこそ建築学科へ!』(五十嵐太郎監修、松田達ほか編著、学芸出版社)
	受講上の注意事項 ・学外の人にヒアリングなど行うときには、大学生としての自覚を持って行動しましょう。 ・成果物に関しては、著作権、肖像権などの権利関係の問題がないか、よく確認しましょう。	

令和7年度後期

授業時間外の学習	① イントロダクション、課題発表、対象地域のリサーチ ② フィールドワーク(浜松中心部の探索)(グループ結成) ③ コンセプトの検討1(手描きスケッチについて) ④ コンセプトの検討2(透視図と消失点について) ⑤ 中間発表、フィードバック ⑥ 空間的提案の検討1(着色と構図について) ⑦ 空間的提案の検討2(ダイアグラムの作成について) ⑧ 空間的提案の検討3(プレゼン技術について) ⑨ 講評会、フィードバック ⑩ 冊子制作の説明、担当決め(構成について) ⑪ 成果物の制作1(冊子制作会議) ⑫ 成果物の制作2(完成版提出) ⑬ 成果物の制作3(ブラッシュアップ・製本) ⑭ 成果物への評価、反省、フィードバック、微調整 ⑮ 総括、冊子の完成
評価の方法・基準	評価は、授業への積極性(20%)、提出課題の内容(30%)、最終成果物(30%)、グループへの貢献(20%)により行う。 ・なお、グループ課題のなかでは、個人の担当箇所を明確にしたうえで、その部分の評価を行うとともに、グループ全体の評価も行う。 ・授業の学習到達目標をもとに以下を基準として評価する。 秀(目標 a～d を、十分に達成している) 優(目標 a～d を、ほぼ達成している) 良(目標 a～d を、ある程度達成している) 可(目標 a～d を、部分的に達成している) 不可(目標 a～d を、あまり達成できていない) ・遅刻、欠席、提出物の不備・遅れは、目標 d の達成度に影響するものとする。

令和 7 年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
12	健康科学	《時限》	健康科学	木村 駿介
科目概要	この講義では、まず、現代社会における「健康」の基本的な概念やその背景について概観し、各ライフステージにおける健康とその阻害要因、心身の健康に対する運動の影響、健康増進のための施策、生活習慣病の発生機序と予防のための施策について学習する。さらに、健康増進および生活習慣病の予防等に効果的な運動・トレーニングの方法について、運動生理学やトレーニング科学の視点から学ぶ。			
学修到達目標	・健康や運動に関する科学的知見の習得 ・健康の維持・増進に必要な実践方法の習得 ・スポーツ科学の視点を取り入れた知識と理論の習得			
授業の方法	健康の維持・増進に必要な理論や実践について座学形式の授業に加えて、映像資料やグループワーク、簡単な実践を交えた授業を実施する。			
授業計画	1) 健康の定義とは何か 2) 我が国の健康施策と現状 3) ライフステージと健康(メタボリックシンドローム, ロコモティブシンドローム) 4) ライフステージと健康(ジュニア期) 5) ライフステージと健康(メンタルヘルス) 6) スポーツと健康(トランス・セオレティカル・モデル) 7) 栄養と健康(栄養学の基礎知識とスポーツ) 8) 栄養と健康(水分補給とジュニア期の栄養) 9) 栄養と健康(ウエイトコントロールとエネルギー代謝) 運動の巧みさ 10) トレーニングの基礎 11) トレーニングプランの作成(理論) 12) トレーニングプランの作成(実践) 13) トレーニングプランの作成(フィードバック) 14) ストレスと運動(競技スポーツの世界) 15) 生涯スポーツ		テキスト	教科書は使用しない。資料は必要に応じて SUAC manaba で公開する。
			参考文献	これからの健康とスポーツの科学第 5 版(講談社 安部孝・琉子友男編)
			注意事項	授業の欠席が 5 回を超えた場合、成績評価の対象としない。

令和7年度後期

授業時間外の学習	1) 健康の定義とは何か 2) 我が国の健康施策と現状 3) ライフステージと健康(メタボリックシンドローム, ロコモティブシンドローム) 4) ライフステージと健康(ジュニア期) 5) ライフステージと健康(メンタルヘルス) 6) スポーツと健康(トランス・セオレティカル・モデル) 7) 栄養と健康(栄養学の基礎知識とスポーツ) 8) 栄養と健康(水分補給とジュニア期の栄養) 9) 栄養と健康(ウェイトコントロールとエネルギー代謝)運動の巧みさ 10) トレーニングの基礎 11) トレーニングプランの作成(理論) 12) トレーニングプランの作成(実践) 13) トレーニングプランの作成(フィードバック) 14) ストレスと運動(競技スポーツの世界) 15) 生涯スポーツ
法・評価の基準	授業内課題(50%), 期末レポート(50%)

令和7年度後期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
13		日本文化史	《時限》	日本文化史		西田 かほる	
科目概要	日本列島上の島々の社会や文化の特徴について、東アジアをはじめとする諸国家・諸民族との交流の歴史を軸にしつつ考察する。例えば、北海道、沖縄諸島、対馬、小笠原諸島などを取り上げ、それぞれに固有な歴史・文化が、いかなる地理的・社会的背景によって生まれたのかを明らかにする。そのことにより、日本が決して単一の社会ではないことを深く理解するとともに、日本文化の多様性を考える。対象とする時期は、古代から現代まで幅広く設定する。						
学修到達目標	沖縄や北海道、対馬、小笠原など、日本列島に位置する島々の歴史や文化、社会のあり方について考察することにより、多様な日本社会の姿を理解するとともに、現代社会について考察する力を養うことができる。						
授業の方法	講義形式とする。 授業で使用する資料などは、SUAC manaba に掲載する。						
授業計画	① 「日本」のとらえ方 ② 蝦夷地 一時代区分とアイヌ文化 ③ 蝦夷地 一前近代の歴史 ④ 北海道 一近代の歴史 ⑤ 琉球 一中国との関係 ⑥ 琉球 一日本との関係 ⑦ 沖縄 一近代から現代の歴史 ⑧ 対馬 一朝鮮との関係 ⑨ 対馬 一日本との関係 ⑩ 小笠原 一前近代の歴史 ⑪ 小笠原 一近代以降の社会 ⑫ 小笠原と領海 ⑬ 八丈島の歴史 ⑭ 竹島と国境 ⑮ 本州における境界と社会				テキスト	講義に関するテキストは用いない。	
					参考文献	参照・参考文献は、講義中に適宜紹介する。	
					受講上の注意事項	出欠は大学の取り決めに準ずる。	

令和7年度後期

授業時間外の学習	① 「日本」のとらえ方 ② 蝦夷地 一時代区分とアイヌ文化 ③ 蝦夷地 一前近代の歴史 ④ 北海道 一近代の歴史 ⑤ 琉球 一中国との関係 ⑥ 琉球 一日本との関係 ⑦ 沖縄 一近代から現代の歴史 ⑧ 対馬 一朝鮮との関係 ⑨ 対馬 一日本との関係 ⑩ 小笠原 一前近代の歴史 ⑪ 小笠原 一近代以降の社会 ⑫ 小笠原と領海 ⑬ 八丈島の歴史 ⑭ 竹島と国境 ⑮ 本州における境界と社会
評価の 法・基準	評価は、manaba に掲載した課題への取り組み(50%)とレポート(50%)により判断する。

令和7年度後期

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
14		音楽史Ⅱ	《時限》	音楽史Ⅱ	奥中 康人	
科目概要	音楽は世界のあらゆる国や地域に遍在しているが、音楽史では、特定の国や地域(例えば、西洋、日本、アジア、アフリカ等のいずれか)における音楽の歴史を概観したのち、その地における音楽(歌、器楽、音楽劇、宗教音楽、民俗音楽、大衆音楽等)について音楽学的な観点から考察する。音楽史Ⅱは、主に近現代を対象とし、必要に応じて政治、制度、思想、その他の芸術領域との関係に目を向け、社会における音楽の営みとその歴史的展開についても言及する。					
学修到達目標	(1)日本の音楽史全体から俯瞰した近現代の音楽(音楽文化)の的確な理解 (2)諸外国における音楽(音楽文化)史と比較能力 (3)音楽文化の形成プロセスについての理解 (4)上記(1)～(3)によって、現在の音楽文化の理解 (5)および、将来の音楽文化を構想する想像力を獲得することを目標とする。					
授業の方法	講義形式でおこなう。 また、可能な限り映像資料を用いて具体例を示し、それぞれについて詳説する。					
授業計画	1. 近世までの日本音楽史 2. 文科の多様性について:話し言葉、食生活 3. 戦争と音楽: 軍隊と軍楽 4. 戦争と音楽: 黒船の来航、太鼓・ラッパ・鼓笛隊 5. 戦争と音楽: 明治政府の軍楽隊と民間音楽隊 6. 学校と音楽: 西洋の教育思想と音楽 7. 学校と音楽: みんなの歌とナショナルリズム 8. 学校と音楽: 強制される唱歌・校歌・社歌の強さ 9. 和洋折衷の音楽: その後の鼓笛隊とラッパ 10. 和洋折衷の音楽: 神社と消防組 11. 和洋折衷の音楽: 童謡、宝塚、流行歌 12. 大衆音楽: ギターのグローバル化 13. 大衆音楽: 占領下日本のアメリカ文化受容 14. 大衆音楽: フォークソングとロック 15. 大衆音楽: 現代日本の音楽文化				テキスト	テキストは用いません。
					参考文献	笠原潔『黒船来航と音楽』(吉川弘文館) 奥中康人『和洋折衷音楽史』(春秋社 2014) 奥中康人『幕末鼓笛隊 土着化する西洋音楽』(大阪大学出版会) 渡辺裕『日本文化 モダンラブソディ』(春秋社) 輪島裕介『創られた「日本の心」神話 演歌をめぐる戦後大衆音楽史』 北中正和『増補 にほんのうた 戦後歌謡曲史』
					注意事項	履修条件等とはとくにありません。

令和7年度後期

授業時間外の学習	1. 近世までの日本音楽史 2. 文科の多様性について:話し言葉、食生活 3. 戦争と音楽: 軍隊と軍楽 4. 戦争と音楽: 黒船の来航、太鼓・ラッパ・鼓笛隊 5. 戦争と音楽: 明治政府の軍楽隊と民間音楽隊 6. 学校と音楽: 西洋の教育思想と音楽 7. 学校と音楽: みんなの歌とナショナリズム 8. 学校と音楽: 強制される唱歌・校歌・社歌の強さ 9. 和洋折衷の音楽: その後の鼓笛隊とラッパ 10. 和洋折衷の音楽: 神社と消防組 11. 和洋折衷の音楽: 童謡、宝塚、流行歌 12. 大衆音楽: ギターのグローバルゼーション 13. 大衆音楽: 占領下日本のアメリカ文化受容 14. 大衆音楽: フォークソングとロック 15. 大衆音楽: 現代日本の音楽文化
評価の方法・基準	期末のレポートの成績(70%)、毎回のコメントペーパー(30%)に基づいて評価します。 レポート課題の内容、提出期限等については課題の発表時に連絡します。 (manabaを定期的にチェックしてください) 秀(授業の目標の(1)～(5)のすべてを達成した):100～90 点 優(授業の目標の(1)～(5)のうち4つを十分に達成した):89～80 点 良(授業の目標の(1)～(5)のうち3つを十分に達成した):79～70 点 可(授業の目標の(1)～(5)のうち2つを達成した):69～60 点 不可:59 点以下

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
15	社会学概論	《時限》	社会学概論	船戸 修一
科目概要	社会を「人間がつくりだす人と人とのつながり(関係)」とするならば、この関係性を維持するためには「規範」がなくてはならない。社会学は、こうした規範が所与のものとしてあるのではなく、社会によってつくり出されたものであり、この規範が当たり前や常識として個人に刷り込まれていくと考える。つまり、社会学では、個人は社会によって決定されるという前提に立つのである。そこで、この授業では、こうした規範を問い直すことによって社会の成り立ちや仕組みを考え、社会学の基本的・基礎的な考え方を習得する。			
学修到達目標	社会学に関する基礎的知識を理解し、現代社会を分析するための能力を身につける。			
授業の方法	授業は原則として講義形式で行う。授業では、配布プリントや資料を使い、社会学に関連する視聴覚教材も視聴する。毎回授業の理解度を測るための課題レポートも課す。			
授業計画	第1回 はじめに～「社会学」を学ぶ意義とは？ 第2回 社会と社会化 第3回 近代化と現代社会の特徴 第4回 個人と集団 第5回 規範(道德)と自殺論 第6回 ジェンダー 第7回 労働 第8回 都市と農村 第9回 アイデンティティ 第10回 役割期待と役割取得 第11回 犯罪とラベリング 第12回 環境問題 第13回 支配と組織 第14回 エスニシティとナショナリズム 第15回 まとめ～「社会学」から現代社会を問う意義とは？			テキスト テキストは使用しない。資料は授業前に SUAC manaba で公開する。
				参考文献 授業で随時紹介する。
				注意事項 上記でも明示したように、課題レポートおよび期末レポートへの回答は、相当量の文章を記述することになり、授業としてハードである。よって履修条件として「書くこと」を苦にしないことを求める。この点も含め、履修についての詳しい説明は、第1回の授業ですするため、必ず出席すること。毎回、課題レポートの作成には1時間以上かかるように設計しているため、授業後の復習は1時間以上かけることになる。授業の欠席が5回を超えた場合、成績評価の対象としない。

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回 はじめに～「社会学」を学ぶ意義とは？ 第2回 社会と社会化 第3回 近代化と現代社会の特徴 第4回 個人と集団 第5回 規範(道德)と自殺論 第6回 ジェンダー 第7回 労働 第8回 都市と農村 第9回 アイデンティティ 第10回 役割期待と役割取得 第11回 犯罪とラベリング 第12回 環境問題 第13回 支配と組織 第14回 エスニシティとナショナリズム 第15回 まとめ～「社会学」から現代社会を問う意義とは？
法・基準 評価の方	平常点(80%)とレポート(20%)で評価する。平常点は、毎回授業後に提出する課題レポートを対象とする。授業内容の理解と考察内容の評価する。課題の字数は800字以上とする。レポートは、学期末に提出し、与えられた設問に対して授業内容と絡めて考察しているかどうかで評価する。レポートの字数は4千字以上とする。

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員
16		日本文学史	《時限》	日本文学史	二本松 康宏
科目概要	日本の神話・伝説・昔話といった口承文芸(伝承文学)を主軸のテーマとして、そこから展開・派生するかたちで上代から近現代までの日本文学の体系的な歴史を学ぶ。通史的・編年的な文学史ではない。日本文学というジャンルと作品に深く関わって、文学作品とその成立と展開を支えてきた社会、歴史、民俗、風土、信仰、国際性などについての理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「広がり」について考える機会としてはしい。				
学修到達目標	伝承文学とは、日本文学の研究に民俗学の視野を持ち込み、かつ歴史学や地理学など様々な分野の知見を援用して「物語」の背景を読み解こうとする試みである。文学作品、とくに古典文学作品は、作品だけが孤立して存在しているのではない。その作品が成立した社会、歴史、民俗、風土、信仰、思想、さらにその作品が享受された社会、歴史、民俗、風土、信仰、思想などと不可分に存在してきた。 この授業では以下のような視点と思考の習得を目標とします。 ①日本の神話・伝説・昔話といった口承文芸(伝承文学)をテーマとして、そこから展開・派生するかたちで上代から近現代までの日本文学の体系的な歴史を理解する。 ②日本文学というジャンルと作品に深く関わって、文学作品とその成立と展開を支えてきた社会、歴史、民俗、風土、信仰、国際性などについて理解を深める。				
授業の方法	授業はすべて担当教員による[講義]です。 毎回、1つのテーマによって神話、伝説を取り上げる。それが収載された古典文学作品を紹介し、そうした神話や伝説と古典文学をめぐる社会、歴史、民俗、風土、信仰、思想、環境などを解説する。				
授業計画	第1週. 日本の神話と伝説 第2週. 国土のはじまり『古事記』『今昔物語集』 第3週. 黄泉がえり『古事記』『今昔物語集』 第4週. 天の岩戸『古事記』『神道集』 第5週. 大蛇退治『古事記』『今昔物語集』『平家物語』 第6週. 海幸彦と山幸彦『古事記』『釈日本紀(丹後国風土記逸文)』 第7週. 三輪の大物主『古事記』『日本書紀』『平家物語』 第8週. 最終レポートについてのガイダンス 第9週. 羽衣伝説『帝王編年記(近江国風土記逸文)』『古事記裏書(丹後国風土記逸文)』『竹取物語』『古今和歌集』 第10週. 蘆刈伝説『大和物語』『神道集』『竹取物語』『古今和歌集』 第11週. 笠地蔵『日本霊異記』『枕草子』『徒然草』『源平盛衰記』 第12週. 昔話と笑い話 第13週. 北遠の伝説 第14週. 北遠の昔話 第15週. 伝承文学とは何だったのか			テキスト	二本松康宏著『日本の神話と伝説 改訂版』(私家版、2024年) ※ かつて某国立大学で外国人留学生用に作成されたテキストを日本人大学生向けに改訂したものである。私家版なので一般の書店では購入できません。授業の際、適宜に配布します。
				参考文献	授業ごとのテーマがことなるので、その都度、紹介します。
				注意事項	授業のポリシーは『学びて時に之を習う。亦説(よろこ)ばしからずや』(論語)です。「講義を受けて、その後、ときどき思い出して復習してみる。それって楽しいよね!!」という意味です。つまりこの講義では予習よりも復習を重視します。

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1週. 日本の神話と伝説 第2週. 国土のはじまり—『古事記』『今昔物語集』 第3週. 黄泉がえり—『古事記』『今昔物語集』 第4週. 天の岩戸—『古事記』『神道集』 第5週. 大蛇退治—『古事記』『今昔物語集』『平家物語』 第6週. 海幸彦と山幸彦—『古事記』『釈日本紀(丹後国風土記逸文)』 第7週. 三輪の大物主—『古事記』『日本書紀』『平家物語』 第8週. 最終レポートについてのガイダンス 第9週. 羽衣伝説—『帝王編年記(近江国風土記逸文)』『古事記裏書(丹後国風土記逸文)』『竹取物語』『古今和歌集』 第10週. 蘆刈伝説—『大和物語』『神道集』『竹取物語』『古今和歌集』 第11週. 笠地蔵—『日本霊異記』『枕草子』『徒然草』『源平盛衰記』 第12週. 昔話と笑い話 第13週. 北遠の伝説 第14週. 北遠の昔話 第15週. 伝承文学とは何だったのか
評価の方法・基準	・授業実施回数の2/3以上の出席を単位認定の条件とします。 ・成績は最終レポート(2,000字)によって評価します。 ・最終レポートのテーマは「〇〇の伝承を歩く」。〇〇には自分の出身地もしくは現住地を入れてください。その土地に伝わる伝説や伝承を紹介し、その伝承が育まれた「風景」を読み解いてみましょう。 ・レポートの評価の基準は以下のとおり。 - 授業での内容をよく理解し、とくに優れたレポート…90点～100点 - 授業での内容をよく理解し、優れたレポート…80点～89点 - 授業のコンセプトをよく理解しているレポート…70点～79点 - 授業のコンセプトを理解しているレポート…60点～69点 - 授業のコンセプトを誤って理解しているもの…59点以下＝不可 - インターネットからのコピペまたはそれに近いことが確認されたもの…0点＝不可

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
17	アートマネ ジメントA	《時限》	アートマネジメントA	太田 幸治
科目概要	公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、公演、展覧会、教育プログラムをはじめとしたアウトプットを鑑賞者等に届けるためのマーケティングや、非営利組織が持続的に活動を続けるために不可欠な資源を獲得するためのファンドレイジングなどを中心に学ぶ。			
学修到達 目標	アートマネジメントの応用科目とし、幅広い視点からのアプローチにより、日本におけるアートマネジメントの課題とそれに対するアプローチの方法を学ぶ。とくに、文化施設や実演団体などの芸術文化組織が収入を得るための仕組みと方策を理解する。			
授業の方法	授業は原則として講義形式で行なうが、各回アクションシートを用い「対話型授業 1」を多用する。アクションシートおよびその活用法については、第 1 回目の講義で解説する。			
授業計画	1.オリエンテーションーなぜ、アートは売りにくい商品なのか？ー 2.アート・マネージャーにとってのマーケティングとは何か？ 3.消費者のニーズとマーケティングー顧客志向とはどういうことか？ー 4.マーケティングにおいて消費者の買っているものは何か？ 5.マーケティングなしに消費者は、アートを購買できるのか？ 6.市場細分化、標的市場の設定、ポジショニング 7.マーケティング・ミックス 8.サービス・マーケティングについて考える。 9.ファンを作るとはどういうことか？ 10.オーディエンスは、アートの何を買うのか？ 11.なぜ、ファンドレイジングが必要か？			テキスト ・『はじまりのアートマネジメント』、松本茂章編著、水曜社、2021 年。
				参考文献 ・『マーケティング戦略論』、上原征彦著、有斐閣、1999 年。 ・『人生のルールを外れる衝動のみつけかた』、谷川嘉浩著、ちくまプリマー新書、2024 年。 ・『音楽が聞けなくなる日』、宮台真司、永田夏来、かがりはるき、集英社、2020 年。 ・『宝塚ファンから読み解く 超高関与消費者へのマーケティング』、和田充夫編著、有斐閣、2015 年。 ※そのほかの文献については、講義中に紹介する。

	12.ファンドレイジングの難しさはどこにあるか？ 13.ファンドレイジングの方法 14.アート・マネージャーが重視すべきこと＝コンセプト 15.全体のまとめと講義の講評 16.定期試験 ※講義の内容と順番は変更される場合もある。 ※履修上の注意等を説明するゆえ、第1回目の講義には出席されたい。	受講上の注意事項 【履修上の注意】 ・講義中の積極的な発言を歓迎する。 ・教科書は第2章3節のみを用いる。 ・本講義はしばしば映像、音声の教材を用いる。 ・本講義ではプリントの切れ端や、ルーズリーフではなく、ノートを使用することを強く求める。 【履修者の姿勢について】 ・本講義の担当教員は、教育とは教えたい人間と学びたい人間が双方いてはじめて成立するものであると考えている。ゆえに、「講義を聴いてやる」という姿勢の学生や、そもそも学ぶ気がない単位の数合わせのためとしか講義を捉えられない学生は履修しないこと。 ・当然ながら講義中の私語、居眠り、内職、携帯電話の使用(SNSを含む)等、教員のやる気を殺ぐような行為は禁止。また講義の録音、カメラでの板書撮影も禁止とする。 ※アートを普及したいと願う志のあるアート・マネージャーの卵の学生諸君の履修を期待する。
授業時間外の学習	1.オリエンテーションなぜ、アートは売りにくい商品なのか？－ 2.アート・マネージャーにとってのマーケティングとは何か？ 3.消費者のニーズとマーケティング顧客志向とはどういうことか？－ 4.マーケティングにおいて消費者の買っているものは何か？ 5.マーケティングなしに消費者は、アートを購買できるのか？ 6.市場細分化、標的市場の設定、ポジショニング 7.マーケティング・ミックス 8.サービス・マーケティングについて考える。 9.ファンを作るとはどういうことか？ 10.オーディエンスは、アートの何を買うのか？ 11.なぜ、ファンドレイジングが必要か？ 12.ファンドレイジングの難しさはどこにあるか？ 13.ファンドレイジングの方法 14.アート・マネージャーが重視すべきこと＝コンセプト 15.全体のまとめと講義の講評 16.定期試験 ※講義の内容と順番は変更される場合もある。 ※履修上の注意等を説明するゆえ、第1回目の講義には出席されたい。	
評価の方法・基準	試験結果:80%、平常点:20%(これは授業協力点であり、出席点ではないので注意されたい。)※この基準は大体の目安である。また受講人数等によって期末試験がレポートに変更される場合もある。	

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
18		都市経営論	《時限》	都市経営論	藤井 康幸	
科目概要	都市の経営とは何かということについて、人口減少下に入った今日における経営資源の有効活用の視点、個々の都市政策の実現のプロセスを概観する。同時に、都市の経営を、広く、行政、市民、企業等らの協働する都市のマネジメントと捉え、成熟都市社会における展開方向について考察する。都市経営の範囲は、社会経済、社会資本、コミュニティ、観光、文化など多岐にわたり、これらに関する典型的な事例を取り上げて学習する。					
学修到達目標	都市・地域を取り巻く今日の課題を理解する。 都市・地域にかかる様々なトピックについて関係するセクターの連携や協働の要点について学ぶ。 都市部に人と経済と集中する国土構造変化の背景と諸課題を理解する。 人間社会の諸課題の集積する場であると同時に、それらの課題解決の場であるべき都市について考察する。					
授業の方法	対面講義形式とする。					
授業計画	1 講 イン트로ダクション 都市経営とは、国土の構造 2 講 地方自治制度、市町村合併 3 講 人口減少高齢社会 4 講 持続可能社会 5 講 まちづくり 6 講 総合計画 7 講 都市 浜松の姿 8 講 地方活性化 9 講 都市のブランディング 10 講 防災・減災 11 講 社会資本整備・維持 12 講 空き家対策 13 講 ビエンナーレ・トリエンナーレと地域活性化 14 講 観光・交流 15 講 エイジフレンドリー社会 試験週 期末試験				テキスト	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。
					参考文献	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。
					注意事項	履修を希望する者は講義第 1 回に出席すること。 授業出席と授業コメント投稿をもって出席とします。担当教員が事由を認めた場合以外の欠席および欠席扱いとなる回は減点します。 科目名にある都市経営について、都市は「都市・地域」、経営は「セクター協働」と読み替えてほしい。 日本国内の情勢に加えて海外情勢も多く扱う。広く世界的な視野で自らの暮らすあるいはよく知る地元を考える視点(グローカル)を意識してほしい。 都市経営論だけで履修可能な内容となっているものの、本科目は、「地域計画論(文化政策学科科目:2 年次～、デザイン学部科目:3 年次～)」と縦横にワンセットをなす。履修の順序はどちらからでもよい。

令和7年度後期

授業時間外の学習	1 講 インTRODakション 都市経営とは、国土の構造 2 講 地方自治制度、市町村合併 3 講 人口減少高齢社会 4 講 持続可能社会 5 講 まちづくり 6 講 総合計画 7 講 都市 浜松の姿 8 講 地方活性化 9 講 都市のブランディング 10 講 防災・減災 11 講 社会資本整備・維持 12 講 空き家対策 13 講 ビエンナーレ・トリエンナーレと地域活性化 14 講 観光・交流 15 講 エイジフレンドリー社会 試験週 期末試験
法 評価の方 基 準	成績評価は本学の成績評価基準に拠る。 都市データトリル 5%、中間レポート(本文 2,500 字)30%、期末試験 55%、授業コメント・授業貢献(授業コメント、授業時間中の意見交換)10%の評価割合とする。

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
19	東南アジア の歴史	《時限》	東南アジアの歴史	岡田 建志
科目概要	東南アジアの歴史について考察し、この地域の社会の特質を理解する。主として 18 世紀末までの時代を対象とし、東南アジア大陸部諸地域の社会の形成およびそれらの諸地域間の関係や、東南アジアと近隣諸地域(東アジア・南アジアなど)との関係、さらにはヨーロッパとの関係の歴史について理解を深める。その理解に基づいた考察を通じて、19 世紀以降の東南アジア史および現在の東南アジア各地の社会に関する理解を深めるための基礎を築く。			
学修到達目標	①東南アジア大陸部の歴史について考察し、18 世紀までの当該地域の社会の特質、域内諸地域間の関係、域外諸地域(東アジア・南アジア・ヨーロッパ等)との関係を理解する。 ②理解した内容を発展させて自身が関心を持つテーマ(18 世紀までの東南アジア大陸部に関連したもの)について探究し論ずる力を身につける。 ③上記の①②を通じて 19 世紀以降の東南アジア史に関する理解を深めるための基礎を身につける(ただし、19 世紀からの歴史自体は主たるテーマとしては取り上げない)。			
授業の方法	・授業は講義形式で行う。 ・授業時の課題、学期中の課題 3 件、および期末レポートを課す。 ・SUAC manaba および respon を利用する。 ・第 4・6・7・8・10・14 回の授業で映像資料を視聴する。			
授業計画	東南アジア大陸部のうち主として紅河流域・南シナ海沿岸・メコン川流域・チャオプラヤー川流域を中心とした地域(おおむね現在のベトナム・ラオス・カンボジア・タイに相当する地域)を対象とする。 ① 東南アジア史への導入:東南アジアの地理、東南アジアの文化的多様性 ② 紅河流域の歴史(1):ドンソン文化、北属期、10 世紀における独立政権の成立 ③ 紅河流域の歴史(2):李朝から黎朝初期まで	テキスト	授業に必要な資料は、その都度配付する。	
		参考文献	桐山昇・栗原浩英・根本敬『東南アジアの歴史[新版]—人・物・文化の交流史』有斐閣、2019 年。(税込 2860 円、ISBN:9784641221390)	

	④ 南シナ海沿岸地域の歴史(1):サーフィン文化、南アジアからの文化的影響 ⑤ 南シナ海沿岸地域の歴史(2):チャンパー ⑥ メコン川流域の歴史(1):扶南、真臘、南アジアからの文化的影響 ⑦ メコン川流域の歴史(2):アンコール ⑧ チャオプラヤー川流域の歴史(1):タイ系諸民族の移動、スコータイ ⑨ チャオプラヤー川流域の歴史(2):前期アユタヤ ⑩ 東南アジアと日本列島との関係(②～⑤および⑪の関連事項を含む) ⑪ 紅河流域の歴史(3)、南シナ海沿岸地域の歴史(3):莫朝、鄭氏政権、阮氏政権、西山朝 ⑫ メコン川流域の歴史(3):ラーンサーン、カンボジア(ポスト・アンコール期)、中国系住民の動向 ⑬ チャオプラヤー川流域の歴史(3)(⑩の関連事項を含む):ラーンナー、後期アユタヤ(ヨーロッパとの関係を含む)、18世紀終盤の変動 ⑭ 東南アジア大陸部西部の歴史 ⑮ 東南アジア大陸部諸地域間の関係(①～⑭を振り返って)	受講上の注意事項	【持ち物】 ・情報端末を持参すること。respon(出席確認用)、manaba(出席確認を兼ねた授業時の課題の提出用)を使用する。 【出席に関する事項】 ・出席回数が10回に達しない場合、期末レポートの提出資格を失う。 ・不完全な出席(遅刻・早退等)は0.5回の出席として出席回数に算入する。 ・履修登録変更期間の授業についても出欠の回数および授業時の課題の回数・点数の計算の対象とする。 ・欠席回の配付資料は後日交付する。受け取り方については第1回の授業で説明する。 【期末レポート提出資格】 ・以下の①～③の条件をすべて満たしている履修者にのみ期末レポートの提出資格がある。 ①出席回数が上記の算定方法で10回に達している。 ②授業時の課題の提出回数が10回に達している。 ③学期中の課題を1件以上提出している。 【他学部他学科の学生の履修】 ・第1回授業終了時までには口頭またはメールで科目担当教員に申告すること。
授業時間外の学習	東南アジア大陸部のうち主として紅河流域・南シナ海沿岸・メコン川流域・チャオプラヤー川流域を中心とした地域(おおむね現在のベトナム・ラオス・カンボジア・タイに相当する地域)を対象とする。 ① 東南アジア史への導入:東南アジアの地理、東南アジアの文化的多様性 ② 紅河流域の歴史(1):ドンソン文化、北属期、10世紀における独立政権の成立 ③ 紅河流域の歴史(2):李朝から黎朝初期まで ④ 南シナ海沿岸地域の歴史(1):サーフィン文化、南アジアからの文化的影響 ⑤ 南シナ海沿岸地域の歴史(2):チャンパー ⑥ メコン川流域の歴史(1):扶南、真臘、南アジアからの文化的影響 ⑦ メコン川流域の歴史(2):アンコール ⑧ チャオプラヤー川流域の歴史(1):タイ系諸民族の移動、スコータイ ⑨ チャオプラヤー川流域の歴史(2):前期アユタヤ ⑩ 東南アジアと日本列島との関係(②～⑤および⑪の関連事項を含む) ⑪ 紅河流域の歴史(3)、南シナ海沿岸地域の歴史(3):莫朝、鄭氏政権、阮氏政権、西山朝 ⑫ メコン川流域の歴史(3):ラーンサーン、カンボジア(ポスト・アンコール期)、中国系住民の動向 ⑬ チャオプラヤー川流域の歴史(3)(⑩の関連事項を含む):ラーンナー、後期アユタヤ(ヨーロッパとの関係を含む)、18世紀終盤の変動 ⑭ 東南アジア大陸部西部の歴史 ⑮ 東南アジア大陸部諸地域間の関係(①～⑭を振り返って)		

令和 7 年度後期

評価の方法・基準	・平常点 60%〔毎回の授業時の課題(授業内容に関する考察)30%、学期中の課題(課題文献 3 点の要約とコメント)30%〕(平常点は学修到達目標の①③の到達度を測るものである) ・期末レポート 40%〔提出資格については「受講上の注意事項」に記載してある〕(期末レポートは学修到達目標の①②③の到達度を測るものである) ※期末レポートを提出しない履修者(提出資格を失った場合を含む)には単位を認定しない。 ※成績評価は静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。
----------	---

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
20	西欧・北米文化論	《時限》	西欧・北米文化論	永井 敦子
科目概要	「西欧・北米」として括られる地域は、近代市民社会を胚胎し発展させ、近代文明における先進性を自認していただけでなく、他地域からも近代化の目標と見なされていた。だが西欧・北米において近代文明は、それまでの社会や文化を変える市民革命や産業革命などを経ながら発展し、またポストモダン思想のような近代への疑念や否定的な見方にもさらされてきた。そうした過程を視野に入れながら、西欧・北米に固有の文化について考察する。			
学修到達目標	a: 西洋の中世以来の古典・有名作品を中心とする文献を読み、その概要を的確に要約・説明できる。 b: それぞれの文献が書かれた年代に応じて、西洋の中世から現代までの歴史の流れの中に、それらの文献を置き直すことができる。 c: それらの文献を通じて、書かれた当時の時代状況や、価値観・世界観について理解する。 d: 西欧・北米に固有の文化の歴史的形成過程について自分なりに考察し、その成果を的確に説明できる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 SUAC manaba を通じて資料を配布し、また課題の提出を求める。 授業期間中の課題として「調査学習」の成果を問う読書レポート7本を課す。			
授業計画	第1回: 西欧・北米の文化とは 第2回: I 中近世(1)キリスト教＝『ローランの歌』など 第3回: I 中近世(2)慣習法＝『ニーベルンゲンの歌』など 第4回: I 中近世(3)封建制＝『マグナ・カルタ』など 第5回: I 中近世(4)共同体と都市＝マキャヴェリ『君主論』など 第6回: I 中近世(5)家族＝シェイクスピア『ロミオとジュリエット』など 第7回: I 中近世(6)植民地＝デフォー『ロビンソン・クルーソー』など 第8回: I 中近世(7)科学革命＝デカルト『方法序説』など 第9回: II 近代(1)啓蒙と市民革命＝ルソー『社会契約論』など 第10回: II 近代(2)産業化＝マルクス『賃労働と資本』など 第11回: II 近代(3)合理化＝ウェーバー『職業としての学問』など 第12回: III 現代(1)戦争＝レマルク『西部戦線異状なし』など 第13回: III 現代(2)環境破壊＝カーソン『沈黙の春』など 第14回: III 現代(3)ジェンダー論＝ウルフ『自分ひとりの部屋』など 第15回: III 現代(4)価値観の転換の時代に 第2回以降は各回ごとに、上記の文献(の一部)の翻訳を提示し、文献の講読と解説、時代背景の説明を中心に進める。		テキスト	教科書は使用しない。 授業中に講読する文献については、1週間前までに manaba にアップする。
			参考文献	「ローランの歌」佐藤輝夫訳、『ローランの歌 狐物語 中世文学集Ⅱ』筑摩書房<ちくま文庫>1986年。『ニーベルンゲンの歌(前編)』相良守峯訳、岩波書店<岩波文庫>1975年改版。『マグナ・カルタ』城戸毅訳、ほるぷ教育開発研究所 1990年。マキャヴェリ『君主論』池田廉訳、中央公論社<中公文庫・新訳>1995年。シェイクスピア『ロミオとジュリエット』小田島雄志訳、白水社<白水uブックス>1983年、デフォー『ロビンソン・クルーソー』鈴木恵訳、新潮社<新潮文庫>2019年。デカルト『方法序説』谷川多佳子訳、岩波書店<岩波文庫>1997年。ルソー『社会契約論』中山元訳、光文社<古典新訳文庫>2008年。マルクス『賃労働と資本』長谷部文雄訳、岩波書店<岩波文庫>1981年改版。ウェーバー『職業としての学問』尾高邦男訳、岩波書店<岩波文庫>1980年改訳。レマルク『西部戦線異状なし』秦豊吉訳、新潮社<新潮文庫>2007年改版。カーソン『沈黙の春』青木築一訳、新潮社<新潮文庫>2004年改版。ウルフ『自分ひとりの部屋』片山亜紀訳、平凡社<平凡社ライブラリー>2015年。そのほか、授業中に紹介する。

		注意講事項の	授業には事前に manaba にアップされた資料を見るための PC またはタブレット端末、または資料の紙プリントを持参すること。スマートフォンの画面で資料を見ることは勧めない。 6 回以上の欠席(公欠を除く)、または読書レポート 3 回以上の未提出があった学生は、最終レポートの採点対象としない。
授業時間外の学習	第1回: 西欧・北米の文化とは 第2回: I 中近世(1)キリスト教=『ローランの歌』など 第3回: I 中近世(2)慣習法=『ニーベルンゲンの歌』など 第4回: I 中近世(3)封建制=『マグナ・カルタ』など 第5回: I 中近世(4)共同体と都市=マキャヴェリ『君主論』など 第6回: I 中近世(5)家族=シェイクスピア『ロミオとジュリエット』など 第7回: I 中近世(6)植民地=デフォー『ロビンソン・クルーソー』など 第8回: I 中近世(7)科学革命=デカルト『方法序説』など 第9回: II 近代(1)啓蒙と市民革命=ルソー『社会契約論』など 第10回: II 近代(2)産業化=マルクス『賃労働と資本』など 第11回: II 近代(3)合理化=ウェーバー『職業としての学問』など 第12回: III 現代(1)戦争=レマルク『西部戦線異状なし』など 第13回: III 現代(2)環境破壊=カーソン『沈黙の春』など 第14回: III 現代(3)ジェンダー論=ウルフ『自分ひとりの部屋』など 第15回: III 現代(4)価値観の転換の時代に 第2回以降は各回ごとに、上記の文献(の一部)の翻訳を提示し、文献の講読と解説、時代背景の説明を中心に進める。		
評価の方法・基準	・最終レポート 30%。 ・平常点 70%(中途課題の読書レポート 7 本各 10%)。 秀=すべての点を達成したと認められる場合。(ただし、用語法や事実確認に瑕疵が認められる場合には減点される。以下同じ。) 優=a～c を達成したと認められる場合。 良=a と b を達成したと認められる場合。 可=a を達成し、b についても検討したと認められる場合。 不可=a を達成したと認められない場合、つまり課題として提示された文献を自分自身で読み込んだと認められない場合。または、提出物の記述方法または研究方法に重大な瑕疵がある場合。		

令和 7 年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
21	持続可能な社会	《時限》	持続可能な社会	武田 淳
科目概要	2015 年に SDG (Sustainable Development Goals) の 17 の目標が国連で可決されてから、「社会の持続可能性」には、環境にとどまらず、貧困問題の是正、健全な経済発展、平等で公正な社会、生産者と消費者の関係づくり、まちづくりといった多様な価値観が組み込まれるようになった。こうした価値観が生まれた歴史的経緯と変遷を学ぶとともに、持続可能な社会を地域社会や自らの生活から見直し、持続可能なグローバル社会をつくるためにどのように行動・判断していくべきかを学ぶ。			
学修到達目標	・SDGs に時代に入り、国際協力の中心課題が環境問題へとシフトした理由を MDGs との比較から説明できるようになる。 ・なぜ、これまでの社会は非持続可能だったのか、ポリティカルエコロジー論の観点から説明ができるようになる。 ・環境問題の深化は、なぜ人々の紐帯を弱めていくのか、リスク社会論の観点から説明できるようになる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。なお、実際に社会を変えていくためには、授業の知識を「覚える」こと以上に「使いこなす」力が求められる。そこで、本授業では、「グループディスカッション」や「ロールプレイ」などのワークショップを多く取り入れる。			
授業計画	①MDGsから SDGs へ ーどのようにして「持続可能性」が国際協力の中心課題となったのか？ 内容:SDGs とは何か、SDGs が誕生した経緯を学ぶ。 ②コスタリカ:ウミガメの密猟はいかにして解決できるか？ 内容:ロールプレイを通じて目標 14(海の豊かさ)の内容と課題を理解する。 ③ケニア:ゾウの密猟とポリティカルエコロジー		テキスト	なし
			参考文献	適宜授業中に指示する

	内容:遠く離れた地域における環境破壊が私たちの生活とどのように関連するのか ポリティカルエコロジーの概念を学ぶ。 ④タンザニア:ゾウの「獣害」はいかにして起きたか? —保護と保全を巡って 内容:ロールプレイを通じて目標15(陸の豊かさ)の内容と課題を理解する。 ⑤マレーシア:熱帯雨林の喪失とハンバーガーコネクション 内容:食糧調達と森林伐採の関係性を学びつつ目標12(生産と消費)の内容と課題を理解する。 ⑥ホンジュラス:なぜ自然保護区は麻薬取引を助長させるか? 内容:環境保全と安全保障の関係を学びながら目標16(平和構築)の内容と課題を理解する。 ⑦インドネシア:伝統的生態学知識と生態系サービス 内容:ポリティカルエコロジーによる環境破壊を是正する取り組みとして「生態系サービスの支払い制度」を理解する。 ⑧エルサルバドル:貧困と感染症 —バイオパイラシーはいかにして防ぐことができるか? 内容:遺伝資源の分配をめぐる不平等を学びながら目標3(健康と福祉)の内容と課題を理解する。 ⑨ガーナ:私たちは何を食べることを忘れたか? 内容:食べ方が「忘れられた植物」の多様性から目標2(飢餓)の内容と課題を理解する。 ⑩パプアニューギニア:気候変動と島嶼国の「異変」—環境難民の出現と貧困 内容:気候変動はいかにして貧困を生むのかを学びながら目標1(貧困削減)の内容と課題を理解する。 ⑪北極圏:気候変動と北極圏の「異変」—「サンタクロースのふるさと」の現在 内容:気候変動はなぜ国際的合意が難しいのかを学びながら目標13(気候変動)の内容と課題を理解する。 ⑫脱魔術化する社会とSDGsの出現 内容:SDGsの中核概念であるプラネタリーバウンダリーを理解する。 ⑬再魔術化時代の環境問題と民主主義 内容:環境問題の深化が人々の紐帯を弱めていくプロセスをリスク社会論の観点から理解する。 ⑭人新世(アントロポセン)の発見—改めて考える「豊かさとは何か」 内容:後期近代はなぜ再帰性を伴うのか人新世の観点から理解する。 ⑮総括 —環境問題は「未来の描き方」をどのように変えたのか? 内容:環境問題が人類の想像力に与える影響をディスカッションする。	注意講事上項の	本授業は、グループディスカッションを多く取り入れます。積極的な発言・意見交換を期待しています。また、これを機会にディスカッションに対する苦手意識を克服したいという受講生の参加も歓迎します。
--	--	----------------	---

授業時間外の学習	①MDGsからSDGsへ ―どのようにして「持続可能性」が国際協力の中心課題となったのか？ 内容:SDGsとは何か、SDGsが誕生した経緯を学ぶ。 ②コスタリカ:ウミガメの密猟はいかにして解決できるか？ 内容:ロールプレイを通じて目標14(海の豊かさ)の内容と課題を理解する。 ③ケニア:ゾウの密猟とポリティカルエコロジー 内容:遠く離れた地域における環境破壊が私たちの生活とどのように関連するのかポリティカルエコロジーの概念を学ぶ。 ④タンザニア:ゾウの「獣害」はいかにして起きたか？ ―保護と保全を巡って 内容:ロールプレイを通じて目標15(陸の豊かさ)の内容と課題を理解する。 ⑤マレーシア:熱帯雨林の喪失とハンバーガーコネクション 内容:食糧調達と森林伐採の関係性を学びつつ目標12(生産と消費)の内容と課題を理解する。 ⑥ホンジュラス:なぜ自然保護区は麻薬取引を助長させるか？ 内容:環境保全と安全保障の関係を学びながら目標16(平和構築)の内容と課題を理解する。 ⑦インドネシア:伝統的生態学知識と生態系サービス 内容:ポリティカルエコロジーによる環境破壊を是正する取り組みとして「生態系サービスの支払い制度」を理解する。 ⑧エルサルバドル:貧困と感染症 ―バイオパイラシーはいかにして防ぐことができるか？ 内容:遺伝資源の分配をめぐる不平等を学びながら目標3(健康と福祉)の内容と課題を理解する。 ⑨ガーナ:私たちは何を食べることを忘れたか？ 内容:食べ方が「忘れられた植物」の多様性から目標2(飢餓)の内容と課題を理解する。 ⑩パプアニューギニア:気候変動と島嶼国の「異変」―環境難民の出現と貧困 内容:気候変動はいかにして貧困を生むのかを学びながら目標1(貧困削減)の内容と課題を理解する。 ⑪北極圏:気候変動と北極圏の「異変」―「サントクロースのふるさと」の現在 内容:気候変動はなぜ国際的合意が難しいのかを学びながら目標13(気候変動)の内容と課題を理解する。 ⑫脱魔術化する社会とSDGsの出現 内容:SDGsの中核概念であるプラネタリーバウンダリーを理解する。 ⑬再魔術化時代の環境問題と民主主義 内容:環境問題の深化が人々の紐帯を弱めていくプロセスをリスク社会論の観点から理解する。 ⑭人新世(アントロポセン)の発見―改めて考える「豊かさとは何か」 内容:後期近代はなぜ再帰性を伴うのか人新世の観点から理解する。 ⑮総括 ―環境問題は「未来の描き方」をどのように変えたのか？ 内容:環境問題が人類の想像力に与える影響をディスカッションする。
評価の方法・基準	中間レポート(45%)および期末レポート(45%)および授業時のコメントペーパー(10%)の総合点で算出し、以下のように評価する。 秀(100点～90点) 優(89点～80点) 良(79点～70点) 可(69点～60点) 不可(59点以下) なお、レポートの採点基準(レポートを書く上でのポイント)は、課題発表時に示す。

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
22	学習指導と 学校図書館	《時限》	学習指導と学校図書館	林 容子
科目概要	-			
学修到達目標	○学習センター・情報センターとしての学校図書館の機能を理解し、児童生徒の情報リテラシーの育成の為に司書教諭として必要な知識や指導方法を身に付けることができる。 ○学習センター・情報センターとしての学校図書館の機能を理解し、学校図書館は資料や情報を提供し児童・生徒の考える力を養い、問題解決能力を身に付ける場であることを理解することができる。 ○児童・生徒が情報活用能力を身につけることができるよう、司書教諭として指導・支援するためのスキルや知識を学ぶことができる。 ○学校図書館機能をカリキュラムに位置付け、学校全体で情報リテラシー教育に取り組むための司書教諭の役割について理解することができる。			
授業の方法	・授業は講義形式で行う。 ・学校図書館機能をカリキュラムに位置づけ、学習指導に生きる学校図書館にするための司書教諭の役割や情報活用能力育成に必要とされるスキルの指導方法等について、具体的な実践事例や視聴覚資料をもとに「対話型授業2」を行い、理解を深める。			
授業計画	第1回:これからの教育と学校図書館 第2回:教育課程と学校図書館 第3回:学校図書館を活用した授業(1)読書センター機能を中心として 第4回:学校図書館を活用した授業(2)学習センター機能を中心として 第5回:学校図書館を活用した授業(3)情報センター機能を中心として 第6回:情報リテラシー教育の理論 第7回:情報リテラシー教育の推進 第8回:情報リテラシーの育成(1)課題と設定 第9回:情報リテラシーの育成(2)情報の収集 第10回:情報リテラシーの育成(3)整理・分析 第11回:情報リテラシーの育成(4)まとめ・表現 第12回:特別支援教育と学校図書館活用 第13回:情報メディアを活用した授業と学校図書館 第14回:情報サービスと学校図書館 第15回:学習／教育活動を支える学校図書館 ※第16回 定期試験実施		テキスト	『学習指導と学校図書館』編著者 塩谷京子・鎌田和宏 一般財団法人 放送大学教育振興会 NHK出版 2022年 ISBN 978-4-595-32361-4
			参考文献	『教科学習に活用する学校図書館』小川美和子 著 全国学校図書館協議会 『授業で活用する学校図書館』稲井達也 著 全国学校図書館協議会 『すぐ実践できる情報スキル50』塩谷京子 編著 ミネルヴァ書房 『探求の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル55』塩谷京子 著 ミネルヴァ書房
			注意事項	・出席が全授業時間の3分の2に満たない受講者は成績評価の対象としない。 ・各授業のレジュメと課題はSUAC manabaにて公開する。 授業に欠席した場合は、SUAC manabaを確認すること。

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回:これからの教育と学校図書館 第2回:教育課程と学校図書館 第3回:学校図書館を活用した授業(1)読書センター機能を中心として 第4回:学校図書館を活用した授業(2)学習センター機能を中心として 第5回:学校図書館を活用した授業(3)情報センター機能を中心として 第6回:情報リテラシー教育の理論 第7回:情報リテラシー教育の推進 第8回:情報リテラシーの育成(1)課題と設定 第9回:情報リテラシーの育成(2)情報の収集 第10回:情報リテラシーの育成(3)整理・分析 第11回:情報リテラシーの育成(4)まとめ・表現 第12回:特別支援教育と学校図書館活用 第13回:情報メディアを活用した授業と学校図書館 第14回:情報サービスと学校図書館 第15回:学習／教育活動を支える学校図書館 ※第16回 定期試験実施
評価の方法・基準	・授業において理解度把握のために、講義内容についての小レポートを作成する。 ・定期試験は論述形式を中心に出題する。 ・評価配分:小レポート50% 定期試験50%とし、学習センターや情報センターとしての学校図書館の機能を理解し、児童生徒の情報活用能力の育成のために司書教諭として必要とされる知識や指導法等を修得しているかどうかを評価する。 ・成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。

令和7年度後期

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員
23		韓国文化史	《時限》	韓国文化史	林 在圭
科目概要	韓国の歴史と文化の理解に重点を置く。文化は歴史的経緯の上に形成されている。しっかり過去を見つめ、そこから、ことがらの本質にせまる。特に韓国の伝統的な生活文化の諸相に焦点を当て韓国の文化の基礎的な知識を習得し文化的特質の理解を深める。また日中韓の3カ国は古来より様々な側面で互いに強い影響を与えてきた。特に文化の面では日中韓の関係は深い。そこで、日中韓と関連づけながら韓国の歴史と文化の特色について広い視野に立って理解を深める。				
学修到達目標	韓国に関するリテラシーの力を高め、韓国文化を知り理解することができる。 韓国の歴史観、文化と社会にする基礎的知識を身につけることができる。そして、日本文化との類似性や相違について考察ができるようになり、東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得することができる。				
授業の方法	授業は講義形式で行う。授業の講義ノート(資料)をSUAC manabaに掲載する。 授業はパワーポイントを利用して講義を中心に行うが、映像資料を多用し、韓国社会の基本的な文化的特質や伝統について、いっしょに学び考えることにする。また、授業の後半は学生からの質問に答えるかたちで進める。				
授業計画	①ガイドンス・概要 ②キムチと焼肉 ③伝統食と男女区別 ④韓国の世界遺産 ⑤シルムとプロスポーツ ⑥韓国の伝統衣装・韓服 ⑦伝統民衆文化 ⑧初誕生祝と還暦祝 ⑨伝統婚礼 ⑩伝統喪礼と墓地問題 ⑪祖先祭祀 ⑫歳時風俗とノリ(民俗遊戯) ⑬テコンドー ⑭北朝鮮事情 ⑮神話の世界・まとめ	テキスト	テキストはとくにない。SUAC manaba に講義ノートの PDF 資料を配付する。		
		参考文献	参考文献等に関しては必要に応じて授業中に紹介する。		
		注意講事項の	・必ず講義の韓国の文化事象と同様な日本の文化事象を調べ、その異同について考える。 ・授業中は私語を慎む。		

令和7年度後期

授業時間外の学習	①ガイダンス・概要 ②キムチと焼肉 ③伝統食と男女区別 ④韓国の世界遺産 ⑤シルムとプロスポーツ ⑥韓国の伝統衣装・韓服 ⑦伝統民衆文化 ⑧初誕生祝と還暦祝 ⑨伝統婚礼 ⑩伝統喪礼と墓地問題 ⑪祖先祭祀 ⑫歳時風俗とノリ(民俗遊戯) ⑬テコンドー ⑭北朝鮮事情 ⑮神話の世界・まとめ
法・基準 評価の方	評価は、授業への積極度・参加度 45%、中間レポート 15%、期末レポート 40%による総合的評価とする。

令和7年度後期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
24		創造都市論	《時限》	創造都市論		藤井 康幸	
科目概要	創造都市論について、代表的な提唱者の著書などを参考にその誕生から今日までの系譜をたどるとともに、それ以前からあった文化・芸術との連携による都市・地域発展の思想や方法論にさかのぼって歴史的視点からも考察する。また、都市の文化的資源の産業面への活用に着目して、都市や地域の経済発展や市民生活の豊かさのあり方について考察する。創造都市の取り組みの背景や内容は国内外諸都市において様々である点について、事例を通じて学習する。						
学修到達目標	創造都市の意味合いを理解する。 都市化の動向と諸課題を理解する。 今日の都市社会における創造性の意義、必要性について考察する。 創造都市の概念に基づき、日本の社会の特色(強み弱み)について考察する。						
授業の方法	対面講義形式とするが、意見交換の時間を積極的に設ける。						
授業計画	1 講 イン트로ダクション 創造都市とは、創造性とは 2 講 都市の時代、東京一極集中 3 講 歴史上の創造都市 4 講 創造都市の諸論 1 5 講 創造都市の諸論 2 6 講 日本の創造性、創造経済 7 講 創造的な産業・職業 8 講 創造的な都市・地域 9 講 創造都市のネットワーク 10 講 欧州文化首都 11 講 創造都市さまざま 12 講 音楽都市 浜松とナッシュビル 13 講 芸術と科学 14 講 創造農村 15 講 創造都市と社会、科目総括 試験週 期末レポート発表				テキスト	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。	
					参考文献	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。	
					注意事項	履修を希望する者は講義第 1 回に出席すること。 授業出席と授業コメント投稿をもって出席とします。担当教員が事由を認めた場合以外の欠席および欠席扱いとなる回は減点します。 本科目の内容は、地域文化、今日社会に求められる創造性、暮らしのデザイン、芸術の役割など、本学の学部学科全般にまたがり、興味のアンテナを広く張り履修してください。文化政策学科科目ではあるが、他学科、他学部からの履修を歓迎します。実際、これまでに全学科の履修実績があります。	

令和7年度後期

授業時間外の学習	1 講 インTRODakション 創造都市とは、創造性とは 2 講 都市の時代、東京一極集中 3 講 歴史上の創造都市 4 講 創造都市の諸論 1 5 講 創造都市の諸論 2 6 講 日本の創造性、創造経済 7 講 創造的な産業・職業 8 講 創造的な都市・地域 9 講 創造都市のネットワーク 10 講 欧州文化首都 11 講 創造都市さまざま 12 講 音楽都市 浜松とナッシュビル 13 講 芸術と科学 14 講 創造農村 15 講 創造都市と社会、科目総括 試験週 期末レポート発表
法・評価の方 基準	成績評価は本学の成績評価基準に拠る。 中間レポート(本文 2,000 字)25%、期末レポート(本文 3,000 字)50%、授業コメント 15%、授業貢献(授業コメント、授業時間中の意見交換)10%の評価割合とする。

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
25		文化と芸術 A	《時限》	文化と芸術A		田ノ口 誠悟	
科目概要	文化、芸術の多様な展開について、革新性の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることがらについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。						
学修到達目標	・現代の欧米演劇における「前衛」的表現についての知識を身につける。 ・現代欧米演劇の他ジャンルとの混淆について客観的に分析できるようになる。 ・現代社会の諸問題と演劇芸術の関係性について他者と討論できるようになる。						
授業の方法	・授業は原則として講義形式(対面)で行いますが、一部「グループワーク」(作品、芸術現象についてのディスカッション)の要素も取り入れます。 ・毎回コメントシートを提出して頂きます(「リアルタイムアンケート」)。 ・資料配布のためなどに SUAC manaba を使用します。						
授業計画	本授業では、現代欧米の演劇における前衛(アバンギャルド)的作品の歴史を学びます。 20 世紀の欧米社会では、民主革命や共産革命、さらに二つの世界大戦により大変動が起きました。そしてその中で、演劇人達は社会問題や個人のアイデンティティの問題を深く追究すべく、劇作法、演出・演技法の大胆な改革を行います。また同時に、映画や美術、音楽といった他ジャンルの表現技法を積極的に取り入れ、「演劇」の概念自体を問い直しました。本講義では、このような欧米前衛劇の歴史を、20 世紀後半以降に消費社会の発展につれて隆盛したミュージカルのような「後衛」＝商業演劇にも目配せしつつ辿って行きたいと思います。				テキスト	テキストは使用しません。教員が作成した資料(プリント、スライド)を適宜印刷物の形(各回)か、SUAC manaba を通して(授業の 1 日前までに)配布します。	
					参考文献	・アラン・ヴィアラ著『演劇の歴史』高橋信良訳、白水社クセジュ文庫、2008 年 ・オスカー・G・ブロケットなど著『エッセンシャル・シアター: 西洋演劇史入門』香西史子訳、春風社、2024 年 ・山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』、月曜社、2019 年	

令和7年度後期

	第1回 イン트로ダクション。「前衛」の意味、前衛の萌芽としての自然主義演劇・象徴主義演劇 第2回 近代ロシア演劇:チェーホフとスタニスラフスキー 第3回 演劇と視覚、感性:演出家クレイグ、アッピア、ラインハルト 第4回 共産主義革命と演劇:演出家メイエルホリド、ピスカートア、ブレヒト 第5回 未来派、ダダ、表現主義の演劇とアントナン・アルトー 第6回 フランスにおける国際演劇の実践:「カルテル」の演出家達とクロードル、ジロドゥ 第7回 民衆演劇運動と劇場政策のはじまり 第8回 アメリカ近代演劇:オニールからウィリアムズまで 第9回 演劇人の社会参加と実存主義演劇 第10回 不条理の演劇:ベケットと言語不信の作家たち。期末レポート課題の発表 第11回 欧米演劇と第三世界:ジュネ、セゼール、コルテス 第12回 1968年の演劇:ピーター・ブルック、太陽劇団、リヴィング・シアター 第13回 アメリカ・ミュージカルの誕生と発展 第14回 演劇と映画の混淆:詩的リアリズム映画からミュージカル映画まで 第15回 全体のまとめと総合ディスカッション:現代の日本に前衛演劇はあるか? ※ディスカッションは第15回以外に、作品の映像を鑑賞した後などに適宜実施します。	注意 講 事 上 項 の	・授業の欠席回数が6回以上の場合成績評価の対象となりません。 ・授業の資料や連絡事項は基本的に SUAC manaba で公開しますので、欠席した方はそちらを確認して下さい。印刷配布のみの資料は次の出席時に配ります。 ・積極的に演劇や舞台作品の上演に足を運ぶようにして頂ければ幸いです。
--	---	---	--

授業時間外の学習	本授業では、現代欧米の演劇における前衛(アバンギャルド)的作品の歴史を学びます。 20 世紀の欧米社会では、民主革命や共産革命、さらに二つの世界大戦により大変動が起きました。そしてその中で、演劇人達は社会問題や個人のアイデンティティの問題を深く追究すべく、劇作法、演出・演技法の大胆な改革を行います。また同時に、映画や美術、音楽といった他ジャンルの表現技法を積極的に取り入れ、「演劇」の概念自体を問い直しました。本講義では、このような欧米前衛劇の歴史を、20 世紀後半以降に消費社会の発展につれて隆盛したミュージカルのような「後衛」＝商業演劇にも目配せしつつ辿って行きたいと思います。 第 1 回 イン트로ダクション。「前衛」の意味、前衛の萌芽としての自然主義演劇・象徴主義演劇 第 2 回 近代ロシア演劇: チューホフとスタニスラフスキー 第 3 回 演劇と視覚、感性: 演出家クレイグ、アッピア、ラインハルト 第 4 回 共産主義革命と演劇: 演出家メイエルホルド、ピスカーツァ、ブレヒト 第 5 回 未来派、ダダ、表現主義の演劇とアントナン・アルトー 第 6 回 フランスにおける国際演劇の実践: 「カルテル」の演出家達とクローデル、ジロドゥ 第 7 回 民衆演劇運動と劇場政策のはじまり 第 8 回 アメリカ近代演劇: オニールからウィリアムズまで 第 9 回 演劇人の社会参加と実存主義演劇 第 10 回 不条理の演劇: ベケットと言語不信の作家たち。期末レポート課題の発表 第 11 回 欧米演劇と第三世界: ジュネ、セゼール、コルテス 第 12 回 1968 年の演劇: ピーター・ブルック、太陽劇団、リヴィング・シアター 第 13 回 アメリカ・ミュージカルの誕生と発展 第 14 回 演劇と映画の混淆: 詩的リアリズム映画からミュージカル映画まで 第 15 回 全体のまとめと総合ディスカッション: 現代の日本に前衛演劇はあるか? ※ディスカッションは第 15 回以外に、作品の映像を鑑賞した後などに適宜実施します。
法・基準 評価の方	・平常点 60%(毎回のコメントシート 40%、授業内ディスカッションへの参加度 20%)、期末レポート 40%で評価します。 ・期末レポートでは、授業で学んだ知識の定着、授業テーマへの理解、作品に対する客観的な分析力を問います。レポート提出期限は課題発表時(第 10 回)にお知らせします。

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
26	読書と豊かな人間性	《時限》	読書と豊かな人間性	林 容子
科目概要	-			
学修到達目標	○児童生徒の読書能力・読書習慣育成や読書環境整備等を行う司書教諭の役割について理解を深め、司書教諭としての基礎的な力を身に付けることができる。 ○読書センターとして機能し、教科学習や総合的な学習・探求的な学習等を支援する学校図書館のあり方について論じることができる。 ○読書の意義を理解し、ブックトークや読み聞かせをはじめとする児童生徒の発達段階に応じた読書指導の手法を習得・実演することができる。 ○児童生徒が本を読むことの楽しさを知り、豊かな心を培う読書指導のあり方について自分なりの意見をもち授業に参加することができる。			
授業の方法	・授業は、原則として講義形式で行う。ただし第3・11回の授業は演習形式にて行い、ブックトークの技能を習得する。 ・人間形成に深いかかわりをもつ読書や教育課程全般に関わる読書指導について「対話型授業2」を行い、読書生活の向上のための手だてを考察していく。			
授業計画	第1回 読書の意義と目的 第2回 読書教育の系譜 第3回 ブックトークの実践方法について 第4回 読書指導と学校図書館 第5回 子どもの読書環境 第6回 発達段階に応じた読書指導 第7回 子どもの本の種類と提供 第8回 読書環境の整備 第9回 子どもと本を結ぶための方法 第10回 各教科等での読書指導・探求的な学習と読書指導		テキスト	『探求 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』探求 学校図書館学編集委員会 著 全国学校図書館協議会 2020年刊 2200円 ISBN978-4-7933-2277-8
			参考文献	『だれでもできるブックトーク』(小学生版・中学高校版) 村上淳子編著 国土社 2010年刊 『読書の楽しさを伝えよう 知と心を育てる読書の教育』(シリーズ いま学校図書館のやるべきこと) 笠原良郎編著 ポプラ社 2005年刊 『サンタクロースの部屋』 松岡享子 著 こぐま社 2011年刊

令和7年度後期

	第11回 ブックトーク実践交流 第12回 読書活動の実際 第13回 読書活動の推進と司書教諭・学校司書 第14回 個に応じた読書指導 第15回 地域社会(公共図書館・学校図書館支援センター等)との連携 ※16 定期試験実施	受講 注意 事項	・出席が全授業時間の3分の2に満たない受講者は評価の対象としない。 ・各授業のレジュメと課題は、SUAC manabaにて公開する。 授業に欠席した場合は、SUAC manabaを確認すること。
授業 時間 外 の 学 習	第1回 読書の意義と目的 第2回 読書教育の系譜 第3回 ブックトークの実践方法について 第4回 読書指導と学校図書館 第5回 子どもの読書環境 第6回 発達段階に応じた読書指導 第7回 子どもの本の種類と提供 第8回 読書環境の整備 第9回 子どもと本を結ぶための方法 第10回 各教科等での読書指導・探求的な学習と読書指導 第11回 ブックトーク実践交流 第12回 読書活動の実際 第13回 読書活動の推進と司書教諭・学校司書 第14回 個に応じた読書指導 第15回 地域社会(公共図書館・学校図書館支援センター等)との連携 ※16 定期試験実施		
評 価 の 方 法 ・ 基 準	・授業において理解度把握のために講義内容についての小レポートを作成する。 ・定期試験は論述形式を中心に出题する。 ・評価配分:小レポート40% 課題(ブックトークシナリオ作成及び実演)20% 定期試験40%とし、読書指導の推進役として、司書教諭に必要とされる知識や指導方法を修得しているかどうかを評価する。 ・成績評価は静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。		

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
27		文化と芸術 C	《時限》	文化と芸術C	上山 典子	
科目概要	文化、芸術の多様な展開について、視覚芸術と実演芸術の視点から諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることがらについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない歴史的展開や最新の状況、社会や時代の要請に応じた現象も取り扱うこととする。					
学修到達目標	・20 世紀ヨーロッパ各国の政治体制、ナショナリズム、そして二つの世界大戦という社会状況を背景に、当時の音楽と音楽文化についての理解を深める ・音楽と社会の関係に目を向けることで、両者の相互作用についての理解を深める					
授業の方法	講義形式					
授業計画	【音楽史における転換期】 ① 19 世紀から 20 世紀へ 【1890 年代～第一次世界大戦勃発までの芸術動向】 ② 世紀末芸術——クリムト、ワイルド、R. シュトラウスのオペラ《サロメ》 ③ 調性の崩壊——シェーンベルクによる「不協和音の解放」(無調) ④ モダニズムの傾向——ロシア・バレエ団とストラヴィンスキーのバレエ音楽《春の祭典》 ⑤ 未来派——マリネッティの「未来派宣言」、ルッソロの「騒音芸術」 【第一次大戦と戦後の音楽状況】 ⑥ 戦中～戦後の芸術動向——ダダイズム、デ・ステイル、バウハウス ⑦ 1920 年代の音楽状況——新古典主義の傾向 【ソヴィエト連邦時代の音楽状況】 ⑧ ロシア・アヴァンギャルドから社会主義リアリズムへ ⑨ スターリン体制下の音楽家たち 【ワイマール共和政時代の文化・芸術】 ⑩ 音楽社会学の成立——ベッカー、アドルノ ⑪ ワイマール文化と「実用音楽」の理念 【ナチス時代の文化政策と音楽】 ⑫「頹廃芸術」と文化統制 ⑬ 音楽の「アーリア化」 【第二次大戦後の音楽】 ⑭ アメリカ実験音楽の興隆——偶然性の音楽、不確定性の音楽など ⑮ 電子楽器の登場——メシアンの《トゥランガリラ交響曲》			テキスト	・毎週、manaba 上にレジュメ(PDF)を配布する	
				参考文献	・授業内でテーマごとに紹介する	
				受講事項の注意	・全授業回数の 1/3 以上の欠席者は、成績評価の対象とならない。遅刻は 1/3 回分の欠席としてカウントする。(なお、就職活動や資格課程の実習、感染症等による登校禁止期間の出欠の扱いについては、初回授業で説明する。通常の出席・欠席扱いとは異なるので注意が必要。)	

授業時間外の学習	【音楽史における転換期】 ① 19世紀から20世紀へ 【1890年代～第一次世界大戦勃発までの芸術動向】 ② 世紀末芸術——クリムト、ワイルド、R. シュトラウスのオペラ《サロメ》 ③ 調性の崩壊——シェーンベルクによる「不協和音の解放」(無調) ④ モダニズムの傾向——ロシア・バレエ団とストラヴィンスキーのバレエ音楽《春の祭典》 ⑤ 未来派——マリネッティの「未来派宣言」、ルッソロの「騒音芸術」 【第一次大戦と戦後の音楽状況】 ⑥ 戦中～戦後の芸術動向——ダダイズム、デ・ステイル、バウハウス ⑦ 1920年代の音楽状況——新古典主義の傾向 【ソヴィエト連邦時代の音楽状況】 ⑧ ロシア・アヴァンギャルドから社会主義リアリズムへ ⑨ スターリン体制下の音楽家たち 【ワイマール共和政時代の文化・芸術】 ⑩ 音楽社会学の成立——ベッカー、アドルノ ⑪ ワイマール文化と「実用音楽」の理念 【ナチス時代の文化政策と音楽】 ⑫「頹廢芸術」と文化統制 ⑬ 音楽の「アーリア化」 【第二次大戦後の音楽】 ⑭ アメリカ実験音楽の興隆——偶然性の音楽、不確定性の音楽など ⑮ 電子楽器の登場——メシアン《トゥランガリラ交響曲》
法・評価の方 基準	・授業内あるいはmanabaを通して複数回、不定期に求める小課題の提出回数とその記述内容：60% ・最終試験(記述式、資料持ち込み可)：40%

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
28	アジアビジネス論	《時限》	アジアビジネス論	兪 嶸
科目概要	NIES、ASEAN、移行経済国とインド亜大陸という区分に基づき、アジア諸国の経済発展の軌跡を回顧し、今や世界の経済成長のエンジンとまで称されるアジア経済の全体像を把握する。また、日本などの先進国とアジア新興国の多国籍企業のあり方を通して、アジアで形成された生産ネットワークの実態と拡大するアジア市場の趨勢を明確にする。グローバル化が急速に進む中、日本が今後アジア諸国とどのように経済連携を図っていけるかについて考えることを目的とする。			
学修到達目標	・アジア経済の世界経済における位置づけを理解できるようになる。 ・アジア諸国・地域の経済発展経路およびその実態を理解できるようになる。 ・アジアで形成された生産ネットワークの実態を理解できるようになる。			
授業の方法	・授業は原則として講義形式で行う。 ・授業において「リアルタイムアンケート」(respon)を行う。			
授業計画	①イントロダクション・開発経済学の視座 ②歴史の中のアジア:東アジアの「雁行型成長」 ③世界の中のアジア:「生産するアジアから消費するアジアへ」 ④韓国経済の実像 ⑤香港・台湾・シンガポール ⑥東南アジア成長の軌道①タイ ⑦東南アジア成長の軌道②インドネシア ⑧移行経済国①中国 ⑨移行経済国②ベトナム ⑩インド亜大陸経済①インド ⑪インド亜大陸経済②バングラデシュ ⑫アジア経済の課題①格差 ⑬アジア経済の課題②環境 ⑭グローバリゼーションとアジア経済 ①東アジア生産ネットワーク ⑮グローバリゼーションとアジア経済 ②東アジア地域の経済協力			テキスト 教科書は使用しない。資料は各回の授業時に配布する。
				参考文献 ①遠藤環,伊藤亜聖,大泉啓一郎,後藤健太(編集)『現代アジア経済論』(有斐閣 2018 年)、 ②みずほ総合研究所『図解 ASEAN を読み解く第2版』(東洋経済新報社 2018 年)
				注意講事項 ・授業の欠席が一定回数を超えた場合、成績評価の対象としない。

令和7年度後期

授業時間外の学習	①イントロダクション・開発経済学の視座 ②歴史の中のアジア:東アジアの「雁行型成長」 ③世界の中のアジア:「生産するアジアから消費するアジアへ」 ④韓国経済の実像 ⑤香港・台湾・シンガポール ⑥東南アジア成長の軌道①タイ ⑦東南アジア成長の軌道②インドネシア ⑧移行経済国①中国 ⑨移行経済国②ベトナム ⑩インド亜大陸経済①インド ⑪インド亜大陸経済②バングラデシュ ⑫アジア経済の課題①格差 ⑬アジア経済の課題②環境 ⑭グローバリゼーションとアジア経済 ①東アジア生産ネットワーク ⑮グローバリゼーションとアジア経済 ②東アジア地域の経済協力
評価の方法・基準	・期末レポート 70% ・その他 30% (授業における積極性:課題の提出状況で評価します) ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
29		保存と修復	《時限》	保存と修復	杉山 知太郎	
科目概要	文化財についての基礎的な知識と、文化財の保存環境や保存方法について多角的に学ぶ。また、対象とする文化財の修復に欠かせない素材の基本的技術について学ぶとともに、日本の伝統技法についての知識も深める。また、歴史的建造物の修復の実態なども紹介する。近年特に重要になっている保存や修復の根本的問題についても、これらに関する概念と社会との関係について考察することによって、より望ましい保存のかたちを考える。					
学修到達目標	現場の実務を把握した上で、劣化防止対策としての保存と修復に関する理論や技術を体得させる。特に、最近注目されるIPM(総合防除管理)の考え方に基づいた保存環境の重要性について理解していただく。					
授業の方法	さまざまな分野の文化財資料の特性について DVD・ビデオ・プリント等を用い、視覚的に体感した後、より具体的な取り扱い方や保存方法について実習を含め論じていきたい。小レポートを課す。					
授業計画	①文化財の保存環境(1) (光、温度、湿度、風) ②文化財の保存環境(2) (害虫等) ③世界文化遺産の保存環境 ④正倉院の保存環境 ⑤伊勢神宮式年遷宮にみる伝統文化の継承 ⑥パルテノンマールにみる人為的破壊 ⑦名画「モナリザ」の秘密 ⑧刀剣の取り扱い ⑨漆工芸品の取り扱い ⑩絵画作品の取り扱い ⑪仏像・神像及び彫刻作品の取り扱い ⑫IPM(総合防除管理)従来の薬剤使用の弊害 ⑬IPM(総合防除管理)環境に優しい防除管理 ⑭まとめ・補足(1) ⑮文章表現指導 ⑯試験				テキスト	必要な参考資料は適宜配布する
					参考文献	適宜指示する
					受講事項の注意	別になし

令和7年度後期

授業時間外の学習	①文化財の保存環境(1) (光、温度、湿度、風) ②文化財の保存環境(2) (害虫等) ③世界文化遺産の保存環境 ④正倉院の保存環境 ⑤伊勢神宮式年遷宮にみる伝統文化の継承 ⑥パルテノンマールにみる人為的破壊 ⑦名画「モナリザ」の秘密 ⑧刀剣の取り扱い ⑨漆工芸品の取り扱い ⑩絵画作品の取り扱い ⑪仏像・神像及び彫刻作品の取り扱い ⑫IPM(総合防除管理)従来の薬剤使用の弊害 ⑬IPM(総合防除管理)環境に優しい防除管理 ⑭まとめ・補足(1) ⑮文章表現指導 ⑯試験
法・評価の基準	出席態度、出席率・小レポート 20%、筆記試験 80%

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
30	中国古典学	《時限》	中国古典学	石村 貴博
科目概要	中国古典の教養が東アジアの思想文化の基盤にあり、これに対する教養なくしては東アジア文化の理解はありえない。本講義は、儒学(経学)、歴史、諸子百家(思想)、文学(詩文集)の分類に従い、それぞれに関する人物と書物を紹介しつつ、その特色について考えていく。中国古典を体系的に概説し、その中から教訓を得、教養の幅を広げるとともに、その背景となっている社会の民族文化的基盤をも視野に入れて考察する。中国古典を通して、ものの見方、感じ方、考え方を広くしていくことを目指す。			
学修到達目標	1, 中国古典を正確に読解できるようになること。 2, 中国古典と日本の小説とを比較し、それぞれの特色について理解し、論述できるようになること。			
授業の方法	授業の冒頭で作品などについて説明したあと、毎回受講生が訓読、口語訳や意見を述べる演習形式(対話型授業1)。			
授業計画	(1) ガイダンス 中国における小説の位置づけの確認。 (2)『聊斎志異』の位置づけ、日本への影響の確認。 蒲松齡『聊斎志異』「酒虫」前半部分講読。 (3) 蒲松齡『聊斎志異』「酒虫」後半部分講読。 (4)芥川龍之介「酒虫」読解。 (5)「渾沌」(『莊子』「応帝王」)との関連性の確認。 (6)但明倫の評の読解。『聊斎志異』「酒虫」の論贊部分と芥川龍之介の三つの答えとの関連性の確認。 (7)蒲松齡『聊斎志異』「酒虫」と芥川龍之介「酒虫」との比較。 (8) 李景亮「人虎伝」第一段落講読。 (9) 李景亮「人虎伝」第二段落講読。 (10) 李景亮「人虎伝」第三段落講読。 (11) 李景亮「人虎伝」第四段落講読。 (12) 李景亮「人虎伝」第五段落講読、 (13)中島敦「山月記」前半部分読解。 (14)中島敦「山月記」後半部分読解。 (15)李景亮「人虎伝」と中島敦「山月記」の比較。			テキスト 田部井文雄・菅野禮行・江連隆・土屋泰男『漢詩漢文小百科』(大修館書店 1990 年 4 月初版)ISBN4-469-23072-3 漢和辞典は必携。『新字源』(角川書店)か『漢辞海』(三省堂)を推奨する。
				参考文献 江連隆『漢文語法ハンドブック』(大修館書店 1997 年 6 月) 西田太一郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫 2023 年 1 月) 坂出祥伸『初学者のための中国古典文献入門』(ちくま学芸文庫 2018 年 5 月) 松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎『教養のための中国古典文学史』(研文出版 2009 年 10 月)
				注意事項 出席回数が授業回数の 3 分の 2 に満たない場合は評価対象外とする。

授業時間外の学習	(1) ガイダンス 中国における小説の位置づけの確認。 (2)『聊斎志異』の位置づけ、日本への影響の確認。 蒲松齡『聊斎志異』「酒虫」前半部分講読。 (3) 蒲松齡『聊斎志異』「酒虫」後半部分講読。 (4)芥川龍之介「酒虫」読解。 (5)「渾沌」(『莊子』「応帝王」)との関連性の確認。 (6)但明倫の評の読解。『聊斎志異』「酒虫」の論賛部分と芥川龍之介の三つの答えとの関連性の確認。 (7)蒲松齡『聊斎志異』「酒虫」と芥川龍之介「酒虫」との比較。 (8) 李景亮「人虎伝」第一段落講読。 (9) 李景亮「人虎伝」第二段落講読。 (10) 李景亮「人虎伝」第三段落講読。 (11) 李景亮「人虎伝」第四段落講読。 (12) 李景亮「人虎伝」第五段落講読、 (13)中島敦「山月記」前半部分読解。 (14)中島敦「山月記」後半部分読解。 (15)李景亮「人虎伝」と中島敦「山月記」の比較。
評価の方法・基準	(1)レポート2本、60%(各30%) ①『聊斎志異』「酒虫」と芥川龍之介「酒虫」の比較と考察 ②李景亮「人虎伝」と中島敦「山月記」の比較と考察 (2)コメントシート、課題など40%。 課題は但明倫の評の読解など。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
31	産業遺産と産業史	《時限》	産業遺産と産業史	四方田 雅史
科目概要	この講義の主な対象は産業遺産・近代化遺産であり、その調査・研究・保存・利活用の実態について講義する。まず、産業遺産の重要性を理解するためには、それらが保存されてきた背景としていかなる産業史の実態があったのか、講義する。また、産業遺産の保存と関連して、日本・世界の文化財政策の流れの中にそれを位置づけ、それらの利活用に関しては、都市計画や再開発、まちづくり、産業観光などの流れから捉えることを講義の目的の一つとする。			
学修到達目標	(1) 産業遺産・近代化遺産がどのように保存・活用されているか、事例を通じて理解すること。 (2) 産業遺産の背景にある経済史・産業史の展開を西欧・日本について学び理解すること。			
授業の方法	講義を中心とし、適宜 VTR や画像なども使用して理解を深める。また、授業中に課題を課すことがあり、さらに冬休みに自分の実家・故郷・旅行先や浜松周辺の産業遺産・近代化遺産に行きその歴史的背景について調べるレポートを課す。			
授業計画	若干の変更はありうるが、以下の内容を講義する予定である。 第1回 イン트로ダクションー文化財、そして産業遺産とは何か？ 第2回 産業遺産の保存①ー日本の文化財行政 第3回 産業遺産の保存②ー国際的取組 第4回 Case Study①ーイギリスの産業革命遺産 第5回 Case Study②ーイギリスの交通・輸送革命遺産 第6回 Case Study③ー大陸ヨーロッパの産業遺産 第7回 Case Study④ー富岡製糸場と絹産業遺産群 第8回 Case Study⑤ー在来産業と近代産業 第9回 Case Study⑥ー産業遺産としての鉱山とその歴史 第10回 Case Study⑦ー製鉄業の遺産とその歴史 第11回 Case Study⑧ー機械遺産の保存とその歴史 第12回 産業遺産の調査法(レポートとの兼ね合いもあるため、早めることもある) 第13回 産業遺産の保存と利活用 第14回 産業遺産とまちづくり 第15回 産業遺産と観光		テキスト	使用しない。
			参考文献	平井東幸・種田明・堤一郎編著『産業遺産を歩こうー初心者のための産業考古学入門』東洋経済新報社、2009年、清水慶一・清水襄『近代化遺産探訪ー知られざる明治・大正・昭和』エクスナレッジ、2007年、四方田雅史・加藤裕治編著『中東欧の文化遺産への招待ーポーランド・チェコ・旧東ドイツを歩く』青弓社、2018年など。講義中に適宜、提示する。
			注意講事項	年末年始の休み期間に、産業遺産・近代化遺産を実地で調査してその背景や文化財としての状況を調査し、それを文化政策として生かす提案をしてもらうレポートを課します。常日頃から旅行先や自ら住んでいる地域の文化財・文化遺産などに関心を持って訪れてみてください。またパソコンの持ち込みは義務にはしないが、可能。

令和7年度後期

授業時間外の学習	若干の変更はありうるが、以下の内容を講義する予定である。 第1回 イン트로ダクションー文化財、そして産業遺産とは何か？ 第2回 産業遺産の保存①ー日本の文化財行政 第3回 産業遺産の保存②ー国際的取組 第4回 Case Study①ーイギリスの産業革命遺産 第5回 Case Study②ーイギリスの交通・輸送革命遺産 第6回 Case Study③ー大陸ヨーロッパの産業遺産 第7回 Case Study④ー富岡製糸場と絹産業遺産群 第8回 Case Study⑤ー在来産業と近代産業 第9回 Case Study⑥ー産業遺産としての鉱山とその歴史 第10回 Case Study⑦ー製鉄業の遺産とその歴史 第11回 Case Study⑧ー機械遺産の保存とその歴史 第12回 産業遺産の調査法(レポートとの兼ね合いもあるため、早めることもある) 第13回 産業遺産の保存と利活用 第14回 産業遺産とまちづくり 第15回 産業遺産と観光
評価の方法・基準	授業内課題 15%、試験 40%、レポート 45%で評価する。 授業内に動画を見たりして感想や意見・疑問などを書いてもらう課題を設定し、それを評価に加点する。レポートについては、指定された書式を満たしているか、産業遺産の背景等について調査ができているかという基準で評価を行う。また試験について、レポートで問えない産業遺産の保存や利活用を取り巻く課題に対する理解、および産業史に対する理解について問い、その理解度によって評価を行う。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
32	劇場芸術論	《時限》	劇場芸術論	永井 聡子
科目概要	社会と共に歩んできた演劇は、劇場との融合から生まれてきた。俳優や舞踊家に先立つ劇場空間が演出を生み出し、演劇や舞踊作品が創造されることを前提に、演劇の基本を学ぶ。歌舞伎劇場、文楽劇場、能舞台、円形劇場、アンフィシアター、プロセニウム形式の劇場などで上演される舞台芸術作品が、なぜ文化施設の計画や運営に関係するのか。劇場の観客なしでは成立しない演劇、ミュージカル、ダンス作品と劇場芸術の世界を革命的に変えた、演劇や劇場人の言説、先行する論考から理解を深める。			
学修到達目標	西洋と日本の比較舞台芸術に視点をおき、演劇（オペラ、近現代・歌舞伎・文楽などの伝統芸能、ミュージカルも含む）が上演される作品と空間と運営との関係性を社会的環境や果たす役割から考察する。 劇場は社会とともに歩んできた。中でも観客の存在は大きく劇場のあり方を決定づけている。劇場の歴史は現代にも多大な影響を与えている一方で、日々劇場運営、演出理念、舞台技術は進化している。ギリシャ劇場とギリシャ演劇、シェイクスピア劇場と演劇作品などの歴史と、欧風化の流れの中で、帝国劇場、築地小劇場、東京宝塚劇場の近代化が演劇世界を革命的に変えたように、劇場を演出理念、空間、運営の融合から成立するものと定義し、劇場史、舞台芸術史における理念整理を行いながらそのメカニズムを考察します。地域にある「公立文化施設」は「劇場」か。「劇場」とは何か、その本質を探る。			
授業の方法	劇場芸術のビデオ映像、劇場空間、劇作家、演出家、俳優などの取材資料、劇場関係資料等から講義を行う。			
授業計画	第 1 回 はじめに 第 2 回 劇場の歴史（オペラ劇場と芝居小屋） 第 3 回 劇場・舞台芸術の専門用語（舞台機構、舞台装置、舞台美術など） 第 4 回 舞台芸術作品と劇場空間について考察比較 第 5 回 劇場空間と運営 第 6 回 舞台作品の制作環境と空間（演出家などスタッフの役割） 第 7 回 劇場空間の分析① 第 8 回 劇場空間の分析② 第 9 回 ドラマと空間構造（演劇、ダンス、ミュージカル）① 第 10 回 ドラマと空間構造（演劇、ダンス、ミュージカル）② 第 11 回 ドラマと空間構造（演劇、ダンス、ミュージカル）③ 第 12 回 公立文化施設の運営 第 13 回 公立文化施設の空間と作品制作環境 第 14 回 振り返り① 第 15 回 振り返り② ・劇場界も変革を迫られている一方で進化の兆しもある。 ・新しいトピックスが入った場合、授業内容を変更して伝える。			テキスト 永井聡子『劇場の近代化―帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場』思文閣出版（2014） 永井聡子『新・舞台芸術史―劇場芸術の境界線から読み解く』現代図書（2024）
				参考文献 清水裕之『劇場の構図』鹿島出版会（1985 年）ほか
				注意講事項 この講義は基本的に対面授業です。 劇場見学は先方との都合により別時間に設定する場合があります。

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回 はじめに 第2回 劇場の歴史(オペラ劇場と芝居小屋) 第3回 劇場・舞台芸術の専門用語(舞台機構、舞台装置、舞台美術など) 第4回 舞台芸術作品と劇場空間について考察比較 第5回 劇場空間と運営 第6回 舞台作品の制作環境と空間(演出家などスタッフの役割) 第7回 劇場空間の分析① 第8回 劇場空間の分析② 第9回 ドラマと空間構造(演劇、ダンス、ミュージカル)① 第10回 ドラマと空間構造(演劇、ダンス、ミュージカル)② 第11回 ドラマと空間構造(演劇、ダンス、ミュージカル)③ 第12回 公立文化施設の運営 第13回 公立文化施設の空間と作品制作環境 第14回 振り返り① 第15回 振り返り② ・劇場界も変革を迫られている一方で進化の兆しもある。 ・新しいトピックスが入った場合、授業内容を変更して伝える。
評価の方法・基準	毎回のコメントペーパーへの記述、レポート提出により評価。 授業への積極的参加度、授業におけるそれぞれの作業についての貢献度の評価(50%)、レポート等成果物の、内容についての評価(50%) 評価の基準:授業への積極的な参加、レポート等成果物の内容が優れている:優授業への積極的な参加に一定の貢献がある、レポート等成果物の内容が一定の水準に達している:良授業への参加、レポート等成果物の内容に多少の問題はあるが、評価できる所見がある:可原則的には授業への出席が前提となる。正当な理由がなく3回以上欠席の場合は成績評価しない。

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
33		地中海地域文化論	《時限》	地中海地域文化論		中田 健太郎	
科目概要	地中海地域の文化について基礎的な知識を学ぶとともに、地域文化を考察するための基本的な方法論について理解することを目的とする。地中海は、キリスト教文化圏やイスラーム文化圏など、複数の異なる文化圏を含みこんでいるとされる。しかし地中海はまた、それらの複数の文化圏に、統一の基盤をあたえてもいる。地中海周辺のいくつかの国家に焦点を当て、それらの歴史的・文化的特徴を確認しながら、それらの地域的統一性について考察したい。また、文化作品・事象と地域との関係性についても、具体的な検討を行う。						
学修到達目標	地中海地域の文化・生活について学ぶ。とりわけ、地中海西域(西ヨーロッパ・南ヨーロッパ・北アフリカ)の各国の文化事象について理解する。地中海地域に属するさまざまな国の社会・歴史・文化を比較できるようにし、地中海地域文化圏の特質について論じられるようになる。地域文化論的思考を身につける。						
授業の方法	授業は講義形式で行います。 地中海地域文化の成立と、地中海に面する各国について学びます。さまざまな国の社会・歴史・文化について理解を深め、地中海地域の文化的特性について考察します。プリントや映像資料などによって、さまざまな文化事象に触れてもらいます。 SUAC manaba を利用したアンケート、情報提供を行います。 授業中に respon を利用して「リアルタイムアンケート」を行う場合があります。 学期中には適宜、地中海地域文化について理解を深め、レポート執筆法の基礎を確認するための、課題に取り組んでももらいます。 学期末には、地中海地域文化の特質について、具体例を挙げて論じるレポートを執筆してもらいます。						
授業計画	第1回:ガイダンス 地中海地域の古代(一) エーゲ文明 第2回:地中海地域の古代(二) ギリシアの文化と社会 第3回:地中海地域の古代(三) ローマの文化と社会 ユダヤ教とキリスト教 第4回:イタリア(一) イタリアの都市と生活 第5回:イタリア(二) イタリア史概略 ルネサンスとそれ以前の芸術 第6回:フランス(一) フランスの都市と生活 第7回:フランス(二) フランス史概略 フランス的思考と地中海 第8回:スペイン(一) スペインの都市と生活 地中海ダイエット 第9回:スペイン(二) スペイン史概略 ルネサンス以降の芸術 第10回:イスラームと地中海(一) イスラームの文化・生活 第11回:イスラームと地中海(二) イスラーム史概略 第12回:北アフリカ(一) エジプト 第13回:北アフリカ(二) モロッコ 第14回:地中海地域と現代(一) ヨーロッパとイスラーム 第15回:まとめ 地中海地域と現代(二) 地中海から考える				テキスト	プリントを配布します。	
					参考文献	授業内で指示します。	
					注意事項の受講	respon を利用した「リアルタイムアンケート」を行う場合があるため、情報端末(スマートフォンも可)を持参してください。 授業計画は、実際の進捗および受講者の関心などにしたが、変更となる場合があります。	

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回:ガイダンス 地中海地域の古代(一) エーゲ文明 第2回:地中海地域の古代(二) ギリシアの文化と社会 第3回:地中海地域の古代(三) ローマの文化と社会 ユダヤ教とキリスト教 第4回:イタリア(一) イタリアの都市と生活 第5回:イタリア(二) イタリア史概略 ルネサンスとそれ以前の芸術 第6回:フランス(一) フランスの都市と生活 第7回:フランス(二) フランス史概略 フランス的思考と地中海 第8回:スペイン(一) スペインの都市と生活 地中海ダイエツト 第9回:スペイン(二) スペイン史概略 ルネサンス以降の芸術 第10回:イスラームと地中海(一) イスラームの文化・生活 第11回:イスラームと地中海(二) イスラーム史概略 第12回:北アフリカ(一) エジプト 第13回:北アフリカ(二) モロッコ 第14回:地中海地域と現代(一) ヨーロッパとイスラーム 第15回:まとめ 地中海地域と現代(二) 地中海から考える
評価の方 法・基準	平常点(課題への取り組み)50%、学期末レポート50%。 学期末レポートを提出しない場合、成績は「不可」とする。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。

令和7年度後期

科目コード		曜日	時限	科目名		担当教員	
34		Global Issues	《時限》	Global Issues		Ryan Jack	
科目概要	今日の地球社会が直面する諸問題、いわゆる地球規模問題群(global issues)について、英語で講義し、討論を行う科目である。それぞれの問題の概要と地球社会の取り組みについて英語文献を読み解き、自らの考えを英語で表現し、討論する能力の涵養を授業の目的とする。取り上げる問題群としては、地球規模の経済格差、紛争、地球環境問題、人の移動、技術革新、地球市民意識の台頭などが事例として挙げられる。学生が英語圏の大学に留学した際に学部の講義を受ける訓練としての機能も担うものとする。						
学修到達目標	本授業では、以下を目標とする。英語中級の講義スタイルの授業に慣れてもらうこと、重要なグローバル問題についての内容知識を教授すること、英語による短いアカデミックレポートを書くこと、批判的思考力を伸ばすこと、調査と分析技術を教授すること、先進民主主義に参加するために必要な知的技能の育成を促すこと。						
授業の方法	The basic lesson flow for all 15 weeks will be the following: interactive lecture/note-taking, peer comprehension check,listening or conversational activity, review, assign homework. All students will be expected to actively participate in all activities. 基本的な15週の授業の流れは、次の通りである。講義・ノートテイク、ピア・理解チェック、リーディングまたはリスニング・会話アクティビティ、復習、翌週の課題の提示。学生は授業ですべての活動に対する積極的参加が求められる。						
授業計画	第1回:Lecture 1 – Preface & Chapter 1 “So Close and Yet So Different,” (up to page 44) 第1章 こんなに近いのに、こんなに違う 第2回:Lecture 2 – Chapter 2 “Theories That Don’t Work” & Chapter 3 “The Making of Prosperity an Poverty” (up to page 95) 第2章 役に立たない理論 and 第3章 繁栄と貧困の形成過程 第3回:Lecture 3 – Chapter 4 “Small Differences and Critical Junctures: The Weight of History” pages 96 – 123 第4章 小さな相違と決定的な岐路―歴史の重み 第4回:Lecture 4 – Chapter 5 “I’ve Seen the Future, and It Works”: Growth Under Extractive Institutions” pages 124 – 151 第5章 「私は未来を見た。うまくいっている未来を」―収奪的制度のもとでの成長				テキスト	English version: Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty (978-0307719225) 日本語版: 国家はなぜ衰退するのか(上):権力・繁栄・貧困の起源(上)978-4152093844 国家はなぜ衰退するのか(下):権力・繁栄・貧困の起源(下)978-4150504656	
					参考文献		

	第5回:Lecture 5 – Chapter 6 “Drifting Apart” pages 152 – 181 第6章 乖離 第6回:Lecture 6 – Chapter 7 “The Turning Point” pages 182 – 212 第7章 転換点 第7回:Lecture 7 – Chapter 8 “Not on Our Turf: Barriers to Development” pages 213 – 244 第8章 領域外一発展の障壁 第8回 Midterm Exam 中間テスト 第9回:Lecture 8 – Chapter 9 “Reversing Development” pages 245 – 273 第9章 後退する発展 第10 Lecture 9 – Chapter 10 “The Diffusion of Prosperity” pages 274 – 301 第10章 繁栄の広がり 第11回 Lecture 10 – Chapter 11 ”The Virtuous Circle” pages 302 – 334 第11章 好循環 第12回 Lecture 11 – Chapter 12 “The Vicious Circle” pages 335 – 367 第12章 悪循環 第13回 Lecture 12 – Chapter 13 “Why Nations Fail Today” pages 368 – 403 第13章 こんにちは国家はなぜ衰退するのか 第14回 Lecture 13 – Chapter 14 “Breaking the Mold” pages 404 – 427 第14章 旧弊を打破する 第15回 Lecture 14 – Chapter 15 – “Understanding Prosperity and Poverty” pages 428 – 462 第15章 繁栄と貧困を理解する Final Report (つまり、期末テスト) (レポート形式)についてですが第14目の授業で配布する予定です。提出締め切りは授業でお知らせします。 期末テスト期間中は授業を行いません。	注意講事項の	注意:テキストは英語版と日本語版両方を購入する必要はありません。本の内容は比較的難しいです。どちら買っても構いませんが授業は原則に英語で行います。 This course will be conducted in English.
--	---	---------------	---

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回:Lecture 1 – Preface & Chapter 1 “So Close and Yet So Different,” (up to page 44) 第1章 こんなに近いのに、こんなに違う 第2回:Lecture 2 – Chapter 2 “Theories That Don’t Work” & Chapter 3 “The Making of Prosperity and Poverty” (up to page 95) 第2章 役に立たない理論 and 第3章 繁栄と貧困の形成過程 第3回:Lecture 3 – Chapter 4 “Small Differences and Critical Junctures: The Weight of History” pages 96 – 123 第4章 小さな相違と決定的な岐路—歴史の重み 第4回:Lecture 4 – Chapter 5 “I’ve Seen the Future, and It Works”: Growth Under Extractive Institutions” pages 124 – 151 第5章 「私は未来を見た。うまくいっている未来を」—収奪的制度のもとでの成長 第5回:Lecture 5 – Chapter 6 “Drifting Apart” pages 152 – 181 第6章 乖離 第6回:Lecture 6 – Chapter 7 “The Turning Point” pages 182 – 212 第7章 転換点 第7回:Lecture 7 – Chapter 8 “Not on Our Turf: Barriers to Development” pages 213 – 244 第8章 領域外—発展の障壁 第8回 Midterm Exam 中間テスト 第9回:Lecture 8 – Chapter 9 “Reversing Development” pages 245 – 273 第9章 後退する発展 第10回 Lecture 9 – Chapter 10 “The Diffusion of Prosperity” pages 274 – 301 第10章 繁栄の広がり 第11回 Lecture 10 – Chapter 11 “The Virtuous Circle” pages 302 – 334 第11章 好循環 第12回 Lecture 11 – Chapter 12 “The Vicious Circle” pages 335 – 367 第12章 悪循環 第13回 Lecture 12 – Chapter 13 “Why Nations Fail Today” pages 368 – 403 第13章 こんにち国家はなぜ衰退するのか 第14回 Lecture 13 – Chapter 14 “Breaking the Mold” pages 404 – 427 第14章 旧弊を打破する 第15回 Lecture 14 – Chapter 15 – “Understanding Prosperity and Poverty” pages 428 – 462 第15章 繁栄と貧困を理解する Final Report (つまり、期末テスト) (レポート形式) についてですが第14目の授業で配布する予定です。提出締め切りは授業でお知らせします。 期末テスト期間中は授業を行いません。
法・基準 評価の方	Active Participation 40% アクティビティへの参加 40% Midterm Exam 30% 試験 30% Final Report 30% (In English) (英語で書く)レポート 30%

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
35	日本経済論	《時限》	日本経済論	四方田 雅史
科目概要	日本経済は戦後、発展を遂げたものの、現在様々な問題を抱えている。この現状を理解する上でも戦後経済史の理解は不可欠である。この講義では、主として第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて概観し、バブル崩壊後の日本経済の課題を、歴史の文脈において位置づけて理解する。特に日本の経済発展パターンについて、先進国や途上国との比較なども念頭に理解を深め、「日本的経営」などの日本特有の経済制度の生成・発展・変容のプロセスから、その意義と限界について講義を行う。			
学修到達目標	(1) 私たちが生きている現代日本経済のあり方が形成されてきた歴史的プロセスについて理解を深めること。 (2) 私たちが自明と考えている「戦後日本的経済システム」がどのように形成され、どのような変容を迫られているか、考察できること。			
授業の方法	講義を中心とするが、経済に関わるので統計が必須である。そのため統計・年表などを載せたハンドアウトなどを使用する。授業中に、映像資料などを見てもらって考えてもらう機会も設け、同時代の理解を助ける。また随時日本経済や日本的経営の特徴と限界を理解するための経済学の考え方を紹介する。			
授業計画	第1回 イントロダクションー戦後日本経済の特徴は何か？ 第2回 終戦直後の日本経済の状況 第3回 財閥解体①ーなぜ財閥が生まれ拡大できたのか。 第4回 財閥解体②ー財閥解体の帰結と日本的経営の源流 第5回 復興経済の政策ー傾斜生産方式とドッジライン 第6回 高度経済成長とは何かー先進国への道と経済構造の変化 第7回 高度成長の要因と「日本的経済システム」の普及 第8回 「日本的経済システム」の普及と確立 第9回 安定成長期と日本経済の「黄金時代」 第10回 バブル経済への過程 第11回 バブルと日本の金融 第12回 平成不況と「失われた30年」ー長引いたバブルの後始末 第13回 「日本的経済システム」の動揺と変容①ー株主の構成変化と金融機関の変容 第14回 「日本的経済システム」の動揺と変容②ー日本的雇用の変化 第15回 人口減少社会への対応と日本経済		テキスト	使用しない。
			参考文献	分からなくなったり、さらに勉強しなくなったりしたときの参考書として、武田晴人『高度成長』岩波新書、2008年；小熊英二『日本社会のしくみ：雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書、2019年、横山和輝『日本金融百年史』ちくま新書、2021年、吉川洋『デフレーション：日本の慢性病の全貌を解明する』日本経済新聞出版社、2013年；渡辺努『世界インフレの謎』講談社現代新書、2022年などを挙げておく。それ以外についても適宜講義内で参考文献を示す。
			注意講事項	授業外学習として、授業後に授業内容について小テストを行ったり、レポートを課したりすることがある。また、参考書などを予習として読むことも勧める。教室へのパソコンの持ち込みは必須ではないが、可能である。

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回 イン트로ダクションー戦後日本経済の特徴は何か？ 第2回 終戦直後の日本経済の状況 第3回 財閥解体①ーなぜ財閥が生まれ拡大できたのか。 第4回 財閥解体②ー財閥解体の帰結と日本的経営の源流 第5回 復興経済の政策ー傾斜生産方式とドッジライン 第6回 高度経済成長とは何かー先進国への道と経済構造の変化 第7回 高度成長の要因と「日本的経済システム」の普及 第8回 「日本的経済システム」の普及と確立 第9回 安定成長期と日本経済の「黄金時代」 第10回 バブル経済への過程 第11回 バブルと日本の金融 第12回 平成不況と「失われた30年」ー長引いたバブルの後始末 第13回 「日本的経済システム」の動揺と変容①ー株主の構成変化と金融機関の変容 第14回 「日本的経済システム」の動揺と変容②ー日本的雇用の変化 第15回 人口減少社会への対応と日本経済
評価の方 法・基準	授業内での課題や manaba による小テストなど 15%、レポート 20%、試験 65%で評価を行う。ちなみに試験の成績は、全体の時系列的理解度や日本経済に関する考え方に対する理解度を確認し、間違いなく理解していれば 90%以上、若干問題があるがほぼ理解できている場合は 80～90%、問題があるが大筋では間違っていない 70～80%、問題があるが、かなりの程度で間違っていない 60～70%、ほとんど理解できていない 60%未満、といった基準で採点する。

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
36		漢文学Ⅱ	《時限》	漢文学Ⅱ	石村 貴博	
科目概要	李白、杜甫、白居易といった日本の文学に大きな影響を与えた漢詩をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞれの作者と詩にまつわるエピソード、社会、文化、思想、そして日本文学への影響(享受)についても学び、漢詩の世界観をめぐる高次の知識と教養を養う。「漢文学Ⅰ」に引き続き、高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。					
学修到達目標	1, 漢文訓読や漢詩の規則を習得し、中国古典および日本漢詩文を読解できるようになること。 2, 中国古典および日本漢詩文の特色を理解し、作品解釈を今までもより更に深めてゆくこと。 3, 中国古典および日本漢詩文を読解するうえで必要な工具書(調べるための本)を使いこなせるようになること。					
授業の方法	授業冒頭で教材などについて説明したあと、毎回受講生が訓読、口語訳や意見を述べる演習形式(対話型授業1)。					
授業計画	(1)ガイダンス 授業の進め方についての説明。李白「静夜思」講読。漢詩の規則。 (2)王維「九月九日憶山東兄弟」講読。重陽および中国の年中行事。 (3)『詩経』「桃夭」・「陟岵」講読。『詩経』についての学習。 (4)古詩十九首「行行重行行」「生年不滿百」講読。五言詩についての学習。 (5)漢の武帝「秋風辞」講読。『楚辞』および七言詩についての学習。 (6)陶淵明「飲酒」講読。陶淵明の伝記と作品。 (7)白居易「売炭翁」前半部分講読 白居易の伝記と作品。中国文学の政治性。 (8)白居易「売炭翁」後半部分講読。漢詩の総括。 (9)『論語』講読(1)「仁」について。 (10)『論語』講読(2)『論語』の政治観 (11)『孟子』の王道政治 (12)『孟子』と性善説 「公孫丑上」篇の「不忍人之心」講読。 (13)『荀子』と性悪説 「性悪」篇の講読。 (14)『老子』講読 無為自然。 (15)『莊子』講読 万物斉同。中国古代思想の総括。				テキスト	田部井文雄・菅野禮行・江連隆・土屋泰男『漢詩漢文小百科』(大修館書店 1990 年 4 月初版)ISBN4－469-23072-3 漢和辞典は必携。『新字源』(角川書店)か『漢辞海』(三省堂)を推奨する。
					参考文献	江連隆『漢文語法ハンドブック』(大修館書店 1997 年 6 月) 西田太郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫 2023 年 1 月) 坂出祥伸『初学者のための中国古典文献入門』(ちくま学芸文庫 2018 年 5 月) 松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎『教養のための中国古典文学史』(研文出版 2009 年 10 月)
					注意事項の上項の	出席回数が授業回数の 3 分の 2 を下回る場合は評価対象外とする。

令和7年度後期

授業時間外の学習	(1)ガイドンス 授業の進め方についての説明。李白「静夜思」講読。漢詩の規則。 (2)王維「九月九日憶山東兄弟」講読。重陽および中国の年中行事。 (3)『詩経』「桃夭」・「陟岵」講読。『詩経』についての学習。 (4)古詩十九首「行行重行行」「生年不滿百」講読。五言詩についての学習。 (5)漢の武帝「秋風辞」講読。『楚辞』および七言詩についての学習。 (6)陶淵明「飲酒」講読。陶淵明の伝記と作品。 (7)白居易「売炭翁」前半部分講読 白居易の伝記と作品。中国文学の政治性。 (8)白居易「売炭翁」後半部分講読。漢詩の総括。 (9)『論語』講読(1)「仁」について。 (10)『論語』講読(2)『論語』の政治観 (11)『孟子』の王道政治 (12)『孟子』と性善説 「公孫丑上」篇の「不忍人之心」講読。 (13)『荀子』と性悪説 「性悪」篇の講読。 (14)『老子』講読 無為自然。 (15)『莊子』講読 万物斉同。中国古代思想の総括。
評価の方法・基準	(1)レポート2本、60%(各30%) ①漢詩の流れ(先秦～唐代) ②中国古代思想のまとめ (2)コメントシートなど40%。

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
37	西欧・北米 の歴史	《時限》	西欧・北米の歴史	永井 敦子
科目概要	近代市民社会を胚胎し発展させた西欧・北米の歴史について、法制・政治体制と、それをとりまく文化・思想・価値観に重点を置きながら検討する。その際に歴史学研究としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、研究する者が自らの視点や問題関心から出発して過去を再構築する方法に学び、歴史についての見方を養う。			
学修到達目標	a: 事実に基づいた歴史の記述方法を理解する。 b: 近世フランスを例に法制・行政体制と文化とのかかわりを説明できるようになる。 c: 史料を参照して事実を探究する歴史の研究方法を理解する。 d: 提示される史料と参考文献を自分で調べた成果を、歴史として記述できる。 e: 自分なりに史料と参考文献を読み解し、独自の視点・論点に基づいた歴史記述ができる。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 SUAC manaba を通じて資料を配布し、また課題の提出を求める。 授業期間中の課題として「調査学習」の成果を問う小レポート5本を課す。			
授業計画	第1回: 歴史学と史料 第2回: I 西洋の君主政 第3回: II 近世フランス王政(1) ルネサンス王政・絶対王政 第4回: II 近世フランス王政(2) 官僚制 第5回: II 近世フランス王政(3) 特権のシステム 第6回: II 近世フランス王政(4) 宮廷と国王儀礼 第7回: II 近世フランス王政(5) 宗教政策 第8回: II 近世フランス王政(6) 都市行政 第9回: III 法令と都市生活(1) 奢侈 第10回: III 法令と都市生活(2) 武装 第11回: III 法令と都市生活(3) 娯楽 第12回: III 法令と都市生活(4) 都市環境 第13回: III 法令と都市生活(5) 貧困・浮浪者対策 第14回: III 法令と都市生活(6) 住民管理 第15回: IV 文化史と法令	テキスト	指定しない。	
		参考文献	授業中に紹介する。	
		注意事項	授業には事前に manaba にアップされた資料を見るための PC またはタブレット端末、または資料の紙プリントを持参することが望ましい(スマートフォンの画面で資料を見ることは勧めない)。 6回以上の欠席(公欠を除く)、または中途課題レポート3回以上の未提出があった学生は、最終レポートの採点対象としない。	

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回:歴史学と史料 第2回:Ⅰ 西洋の君主政 第3回:Ⅱ 近世フランス王政(1)ルネサンス王政・絶対王政 第4回:Ⅱ 近世フランス王政(2)官僚制 第5回:Ⅱ 近世フランス王政(3)特権のシステム 第6回:Ⅱ 近世フランス王政(4)宮廷と国王儀礼 第7回:Ⅱ 近世フランス王政(5)宗教政策 第8回:Ⅱ 近世フランス王政(6)都市行政 第9回:Ⅲ法令と都市生活(1)奢侈 第10回:Ⅲ法令と都市生活(2)武装 第11回:Ⅲ法令と都市生活(3)娯楽 第12回:Ⅲ法令と都市生活(4)都市環境 第13回:Ⅲ法令と都市生活(5)貧困・浮浪者対策 第14回:Ⅲ法令と都市生活(6)住民管理 第15回:Ⅳ文化史と法令
評価の方法・基準	・最終レポート50%。 ・平常点50%(中途課題の小レポート5本)。 秀=すべての点を達成したと認められる場合。(ただし、用語法や事実確認に瑕疵が認められる場合には減点がある。以下同じ。) 優=a～dを達成したと認められる場合。 良=a～c、またはaとbとdを達成したと認められる場合。 可=aとbを達成したと認められる場合。 不可=aまたはbを達成したと認められない場合。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
38	地域産業論	《時限》	地域産業論	鈴木 浩孝
科目概要	地域の特性と産業との関わりについて、地理的空間構造の理論や地域経済計算の手法に基づき考察する。ミクロの観点では、産業立地、土地利用、交易などについての理論を習得し、自治体による産業誘致や地場産業振興策、企業による生産拠点の移転や工程間分業などの実態について理解を深める。マクロの観点では、地域ごとの産業別就業者比率や乗数効果についての分析、および地域内での産業連関に基づく分析を通して、データの活用法を身に付ける。			
学修到達目標	活動が行われる場としての地域・空間に関わるさまざまな経済学的思考を身につける。 地域における産業の実態を応用経済学の観点から分析する。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。 manaba を用いた小テストや課題により、各回の理解度を確認する。			
授業計画	①地域の産業構造と所得 ②工業立地論(1):輸送費指向論の基礎 ③工業立地論(2):輸送費指向論の応用 ④工業立地論(3):労働費指向論 ⑤工業立地論(4):産業集積 ⑥空間的競争:差別化最小原理 ⑦交通:外部効果とピグー的政策 ⑧都市の土地利用:割引現在価値 ⑨分業の利益:労働集約的産業と資本集約的産業, 比較優位 ⑩地域間交易の理論:交易の利益, 保護貿易政策 ⑪為替と貿易収支:マーシャル=ラーナー条件, Jカーブ効果 ⑫地方公共財:公共財の最適供給, 足による投票 ⑬地域経済計算:乗数効果 ⑭地域産業連関(1):産業連関表 ⑮地域産業連関(2):逆行列係数		テキスト	資料を配布する。
			参考文献	・山田・徳岡『地域経済学入門[第3版]』有斐閣(2018年), ・富田和暁『地域と産業』原書房(2002年), ・佐々木・文『都市経済学の基礎』有斐閣(2000年), ・佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣(2014年), ・岩田規久男『間違いだらけの経済常識』日本経済新聞社(1991年) ・西村和雄『まんが DE 入門 経済学 第2版』日本評論社(1999年) など.
			注意事項の	【履修条件】 ・学科必修科目の「経済学」を履修済みであること。 【出席に関する事項】 ・出席が全授業時間の 3 分の 2 に満たない受講者は成績評価の対象としない。 【履修に備えて行っておくべきこと】 ・学科必修科目の「経済学」を復習しておくこと。 当科目では「経済学」の思考法を習得済みであることを前提に授業を行う。

令和7年度後期

授業時間外の学習	①地域の産業構造と所得 ②工業立地論(1):輸送費指向論の基礎 ③工業立地論(2):輸送費指向論の応用 ④工業立地論(3):労働費指向論 ⑤工業立地論(4):産業集積 ⑥空間的競争:差別化最小原理 ⑦交通:外部効果とピグー的政策 ⑧都市の土地利用:割引現在価値 ⑨分業の利益:労働集約的産業と資本集約的産業, 比較優位 ⑩地域間交易の理論:交易の利益, 保護貿易政策 ⑪為替と貿易収支:マーシャル=ラーナー条件, Jカーブ効果 ⑫地方公共財:公共財の最適供給, 足による投票 ⑬地域経済計算:乗数効果 ⑭地域産業連関(1):産業連関表 ⑮地域産業連関(2):逆行列係数
評価の方 法・基準	・小テストまたは課題:80%(約 10%/回). ・授業中の口頭での問いに対する回答等の積極性:20%(約 3%/回).

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
39	マスコミュニケーション論	《時限》	マスコミュニケーション論	加藤 裕治
科目概要	マスコミュニケーションは、ローカルな時間と空間に限定されていた人々の情報伝達や相互作用のあり方を量的および質的に拡大することで、近代社会に大きな影響を与えてきた。この授業ではこうしたマスコミュニケーションの成立過程を歴史的、社会的、技術的な条件から考察し、マスコミュニケーションが担う役割や機能の理解を深めることを目的とする。またインターネットの成立が既存のマスコミュニケーションに与える影響や、その相互作用についても検討する。			
学修到達目標	この授業では、下記の学修を到達目標とします。 ・マスコミュニケーション史を理解することで、現代社会のマスコミュニケーションが、なぜこのような形式として成立しているのかを説明できることを目指します。 ・マスコミュニケーション理論の整理を中心としながら、マスコミュニケーションの役割や機能が論じられるようになることを目指します。 ・上記2点の理解や把握を通じて、現代社会の情報メディアに対するクリティカルな視点を獲得します。それにより情報の受容者の立場だけでなく、情報を生産する立場で社会や各種の実践に参加できることを目指します。			
授業の方法	・授業は講義形式で授業を進めます。 ・授業は原則、対面で行います。パワーポイント、映像資料、manaba を利用します。 ・授業理解の確認(復習)と、次回授業の論点を提供するため、毎回の授業でコメントペーパーを記入してもらいます。このペーパーをもとに毎回の授業では「テキストを用いた双方向コミュニケーション」によるレスポンスを実施します。 ・映像視聴回の授業では、映像視聴後、簡単な「グループワーク」を実施してもらう場合があります。			
授業計画	①はじめに:現代社会において、なぜマスコミュニケーションを学ぶのか ②マスコミュニケーションとは何か(その概念について) ③マスコミュニケーションの出現 ④新聞というマスコミュニケーション ⑤映像資料の視聴とディスカッション(1)(ジャーナリズムの観点) ⑥ラジオというマスコミュニケーション ⑦ナショナリズムとマスコミュニケーション ⑧テレビというマスコミュニケーション ⑨マスコミュニケーションの理論 ⑩映像資料の視聴とディスカッション(2)(現代社会の観点) ⑪メディア・ミックスの時代(1)(メディア移行期の産業と文化の相互交渉) ⑫メディア・ミックスの時代(2)(メディア・エコロジー概念から) ⑬メディア・ミックスの時代(3)(コンバージェンスカルチャー概念から) ⑭映像資料の視聴とディスカッション(3)(パーソナルな観点) ⑮AI時代のマスコミュニケーションについて		テキスト	特定のテキストは使用しません。毎回の授業後にレジュメを manaba にて配布します。また適宜、プリントなどを配る場合があります。
			参考文献	授業内にて適宜、紹介します。
			注意講事事項	・各授業の資料と課題は SUAC manaba にて公開します。授業に欠席した場合、SUAC manaba を確認すること(欠席の連絡メールは読みますが返信はしません)。 ・コメントペーパーやレポートの提出期限を守ること(期限を過ぎた場合、原則、成績評価の対象にはなりません)。

令和7年度後期

授業時間外の学習	①はじめに:現代社会において、なぜマスコミュニケーションを学ぶのか ②マスコミュニケーションとは何か(その概念について) ③マスコミュニケーションの出現 ④新聞というマスコミュニケーション ⑤映像資料の視聴とディスカッション(1)(ジャーナリズムの観点) ⑥ラジオというマスコミュニケーション ⑦ナショナリズムとマスコミュニケーション ⑧テレビというマスコミュニケーション ⑨マスコミュニケーションの理論 ⑩映像資料の視聴とディスカッション(2)(現代社会の観点) ⑪メディア・ミックスの時代(1)(メディア移行期の産業と文化の相互交渉) ⑫メディア・ミックスの時代(2)(メディア・エコロジー概念から) ⑬メディア・ミックスの時代(3)(コンバージェンスカルチャー概念から) ⑭映像資料の視聴とディスカッション(3)(パーソナルな観点) ⑮AI時代のマスコミュニケーションについて
法・評価の基準	下記の合計点で評価します。 ・学期末レポート(得点の割合:60%) ・授業内で毎回提出してもらおうコメントペーパー(得点の割合:40%)。コメントペーパーは各回授業への理解度と記述内容を中心に評価します。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
40	建築構造	《時限》	建築構造	岩崎 敏之
科目概要	建築設計の基礎知識として、構造物の構成法や骨組みの特性を理解し、デザインの表現手法としての構法・構造を学ぶ。木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造やハイブリッド構造等の構造種別の骨組み構成を視覚的に捉えることにより、それらのしくみを理解する。また床・壁・天井などの各種工法についても学ぶ。			
学修到達目標	木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造やハイブリッド構造等のさまざまな構造種別のしくみについて、構成する部材の名称とその役割を理解することを通して構造物を設計する際の判断材料となる知識を獲得する。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。テキストに指定した構造用教材に学んだことがらを書き込む。毎回、学んだことがらについて復習した内容を manaba のアンケートを活用して「振り返り」内容を入力することを要求する。質問の入力があった場合には次回の授業で「フィードバック」を行う。自らが選んだ構造物を紹介する課題を提示するが、その内容について履修者が互いに確認し合う「グループワーク」の機会を設ける。			
授業計画	第1回 構造計画・総論 第2回 さまざまな材料 強さ 固さ 粘り強さ 第3回 木質材料 第4回 木質構造1 全体 第5回 木質構造2 各部 第6回 鉄筋コンクリート構造1 全体 第7回 鉄筋コンクリート構造2 各部 第8回 鉄骨構造1 全体 第9回 鉄骨構造2 各部 第10回 組積造 第11回 PC 構法 第12回 伝統的な建築技術 第13回 床 壁 天井 第14回 床 棚 書院 第15回 まとめ		テキスト	構造用教材 / 日本建築学会 / 2014 年 / 丸善出版 / 税込 2200 円 / ISBN9784818922334
			参考文献	建築デザインの構造と造形 / 小野徹郎 共編著 / 2015 年 / 鹿島出版会 / 税込 3300 円 / ISBN9784306033757 デザイナーのための建築構造入門 / ピート・シルバー / 2014 年 / エクスナレッジ / 税込 3080 円 / ISBN9784767817668
			注意講事項	授業中にどれだけ考えたかということを重視して、各回の振り返りシートの入力内容を成績評価の対象とする。6 回以上欠席した場合、その欠席が公欠制度に該当する場合であっても、原則として成績評価の対象としない。授業時間外においても毎回の復習や授業中に提示した小レポート等の課題に対して、積極的に取り組む学習をすることが必要である。授業時間中に manaba にアクセスできる情報端末(スマートフォンも可)を用いる。

令和7年度後期

授業時間外の学習	第1回 構造計画・総論 第2回 さまざまな材料 強さ 固さ 粘り強さ 第3回 木質材料 第4回 木質構造1 全体 第5回 木質構造2 各部 第6回 鉄筋コンクリート構造1 全体 第7回 鉄筋コンクリート構造2 各部 第8回 鉄骨構造1 全体 第9回 鉄骨構造2 各部 第10回 組積造 第11回 PC 構法 第12回 伝統的な建築技術 第13回 床 壁 天井 第14回 床 棚 書院 第15回 まとめ
法・評価の基準	各回の振り返りシート(50%)、小レポート(20%)、最終レポート(30%)

令和7年度後期

科目コード	曜日	時限	科目名	担当教員
41	グローバル ビジネス論	《時限》	グローバルビジネス論	曾根 秀一
科目概要	科学技術の発展等により経済のグローバル化が急速に進んでいる。もはや経済のグローバル化を無視して企業経営の実践は困難になっている。また経済のグローバル化は国や地域の経済に対しても大きな影響を与えるようになっている。本科目では、主に企業経営の観点から、グローバル・ビジネスの現状と企業戦略のあり方（海外市場への参入、戦略的提携、生産管理、人的資源管理、マーケティング戦略等）について多面的に考察する。さらに、経済のグローバル化が地域経済に与える影響と地場産業や中小企業の対応のあり方についても検討する。			
学修到達目標	a)グローバルビジネスの定義や現状を説明できるようになる。 b)グローバル企業の経営課題や経営機会を説明できるようになる。 C)国際経営環境、戦略のあり方を理解できるようになる。 d)世界各国の環境や現状の違いなどを説明できるようになる。 e)グローバル化が地域経済に与える影響を説明できるようになる。 f)地場産業や中小企業の対応について説明できるようになる。(応用) g)日本企業のグローバル化に必要なものは何か、将来の展望ができるようになる。(応用) h)海外企業の取り組みについても触れ、理論的な見地でも理解できるようになる。(応用)			
授業の方法	各回の授業において「講義」を行う。 講義は、画像やビデオなどのビジュアル資料を用いて行う。 昨今、科学技術の発展等により経済のグローバル化が急速に進み、これらを無視した企業経営の実践は困難になっている。また経済のグローバル化は国や地域の経済に対しても大きな影響を与えている。そこで、本科目では主に企業経営の観点から、グローバルビジネスの現状と環境、戦略のあり方などについて多面的に考察していくと同時に学生諸氏からの質問や意見交換の機会も確保する。「実例」にかんしては、ビデオ教材の活用や外部講師を招聘予定です。一部の講義回ではオンデマンド型遠隔授業を行う(授業計画を参照してください。ここに記したオンデマンド型遠隔授業の回は、授業の進捗状況等により変更になる可能性があります)演習課題やレポート課題の提出等に manaba を使用することがある。			
授業計画	1. イントロダクション:グローバルビジネスとは何か? 2. 経営学の基礎、理論 3. 国際経営環境(1):文化的土壌 4. 国際経営環境(2):国際経営環境の変化 5. 多国籍企業の経営(1):多国籍企業の概要 6. 多国籍企業の経営(2):企業と国家 7. 国際経営戦略(1):歴史的展開 8. 国際経営戦略(2):多角化・集中化		テキスト	使用しない。必要に応じ、資料を配布する。
			参考文献	吉森賢著『グローバル経営戦略』放送大学教育振興会、2006 年。 吉原英樹著『国際経営(第4版)』有斐閣アルマ、2015 年。 ハーマン・サイモン著『グローバルビジネスの隠れたチャンピオン企業』中央経済社、2012 年。

令和7年度後期

	9. 国際経営戦略(3):M&A 10. 国際経営戦略(4):リスクマネジメント 11. 国際マーケティング(1):国際マーケティングの発展 12. 国際マーケティング(2):ブランド構築 13. 国際経営マネジメント(1)海外生産 14. 国際経営マネジメント(2):経営組織、言語 15. 事例と理論を通じたグローバルビジネス	受講 注意 事項	第1回目の授業の際に、より詳細な授業概要の説明を行います。受講を考えている人は必ず出席するようにしてください。
授業 時間 外 の 学 習	1. イントロダクション:グローバルビジネスとは何か？ 2. 経営学の基礎、理論 3. 国際経営環境(1):文化的土壌 4. 国際経営環境(2):国際経営環境の変化 5. 多国籍企業の経営(1):多国籍企業の概要 6. 多国籍企業の経営(2):企業と国家 7. 国際経営戦略(1):歴史的展開 8. 国際経営戦略(2):多角化・集中化 9. 国際経営戦略(3):M&A 10. 国際経営戦略(4):リスクマネジメント 11. 国際マーケティング(1):国際マーケティングの発展 12. 国際マーケティング(2):ブランド構築 13. 国際経営マネジメント(1)海外生産 14. 国際経営マネジメント(2):経営組織、言語 15. 事例と理論を通じたグローバルビジネス		
評価 の 方 法 ・ 基 準	毎回の授業後レポート(30%)、中間レポート(20%)、学期末試験の成績(50%)を通じて評価します。中間レポート課題の提出期限については課題の発表時に連絡します。 上記の評価方法を変更する必要がある場合は、速やかに連絡します。 秀(a～hのすべてを達成した):100～90点 優(a～hのうち7項目を十分に達成した):89～80点 良(a～fのうち6項目を十分に達成した):79～70点 可(a～fのうち5項目を達成した):69～60点 不可:59点以下		

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員
42		哲学	《時限》	哲学	伊野 連
科目概要	人間が自然環境や社会をどのように認識し、受容あるいは対置などの思考や行動の原理としてきたかについて、帰納や演繹といった論理的な思考、分析的あるいは包括的・構造的な認識の方法、倫理や道德の課題など、我々が人間である限り避けて通れない論理、認識、知識等に関する問題を取り上げる。こうした問題を先人たちはどのように考えたかを解説し、我々自身が今日に生きて出会う様々な問題をどのように考えたらよいかを学ぶ。				
学修到達目標	・西洋哲学における偉大な思想家とその学説について理解する。 ・主体的な学習姿勢を身につけ、自ら文献を手にとって、読解できるようにする。 ・近接する学問(宗教学・比較哲学、美学・芸術哲学、応用倫理学など)へと発展させる。 ・将来、指導する立場に置かれた場合、自ら学びそれを伝えることのできる主体的な力を身につける。				
授業の方法	西洋哲学の歴史(history)を通じて、それを物語(story)として捉え、そのつどの重要人物・項目について考察・検証していく。				
授業計画	01 哲学とは何か。西洋哲学と東洋哲学。哲学史と哲学概論。 02 古代ギリシャ哲学(その 1) ソクラテスからプラトンへ 03 古代ギリシャ哲学(その 2) プラトンからアリストテレスへ 04 古代末期から中世哲学へ 05 これまでのまとめ(その 1) 06 近世哲学(その 1) バイコンとデカルト 07 近世哲学(その 2) スピノザとライプニッツ 08 近代哲学(その 1) カントの批判哲学(その 1) 09 近代哲学(その 2) カントの批判哲学(その 2) 10 これまでのまとめ(その 2) 11 近代哲学(その 3) ドイツ観念論 12 近代哲学(その 4) 19 世紀の哲学 13 現代哲学(その 1) フッサールとハイデガー 14 現代哲学(その 2) 20 世紀の哲学 15 全体のまとめ 哲学・倫理学・美学・宗教学 16 期末試験(教場レポート形式) ※上記はあくまで予定であり、進度は授業の状況に応じて変化する。また、美学・芸術論については第 15 回以外にも随時採りあげる予定である。			テキスト	伊野連『哲学・倫理学の歴史』三恵社、2016 年
				参考文献	まずは担当者執筆の諸著(いずれも本学図書館にある) 01 伊野連『ドイツ近代哲学における藝術の形而上学——カント、シェリング、ヤスパースと「哲学のオルガノン」の問題——』リベルタス出版、2012 年 ISBN=9784905208037(理論哲学、認識論、芸術哲学) 02 伊野連『現代美学の射程』三恵社、2015 年 ISBN=9784864874205(芸術哲学) 03 伊野連『カント哲学における影響関係——形式論理学、観念論から量子力学、AI まで——』三恵社、2024 年 ISBN=9784866938738(近刊。近現代ドイツ哲学を中心に、専門的に考察したもの) 04 伊野連『生命の倫理 入門篇』三恵社、2016 年 ISBN=9784864875240(応用倫理学、生命医療倫理学) 次に高校生から社会人まで広い対象の哲学・倫理学入門書(いずれも山川出版社) 05 『倫理用語集 第 2 版』山川出版社、2019 年 ISBN=9784634052079 なお『アナウンサーが読む もういちど読む 山川倫理』ISBN=9784634120044(朗読 DVD-ROM 付き)もある

		注意 事項 の上 項の 上記以外の参考書や資料(学術論文等)などについては必要に応じて教場で紹介する。 また、授業担当者が普段から手に取ったり内容を参照したりしてお薦めできるものも、授業内で随時紹介している。
授業 時間 外 の 学 習	01 哲学とは何か。西洋哲学と東洋哲学。哲学史と哲学概論。 02 古代ギリシャ哲学(その1) ソクラテスからプラトンへ 03 古代ギリシャ哲学(その2) プラトンからアリストテレスへ 04 古代末期から中世哲学へ 05 これまでのまとめ(その1) 06 近世哲学(その1) ベイコンとデカルト 07 近世哲学(その2) スピノザとライプニッツ 08 近代哲学(その1) カントの批判哲学(その1) 09 近代哲学(その2) カントの批判哲学(その2) 10 これまでのまとめ(その2) 11 近代哲学(その3) ドイツ観念論 12 近代哲学(その4) 19世紀の哲学 13 現代哲学(その1) フッサールとハイデガー 14 現代哲学(その2) 20世紀の哲学 15 全体のまとめ 哲学・倫理学・美学・宗教学 16 期末試験(教場レポート形式) ※上記はあくまで予定であり、進度は授業の状況に応じて変化する。また、美学・芸術論については第15回以外にも随時採りあげる予定である。	
法・ 基 準 評 価 の 方 法	授業に対する貢献度(毎回配布されるアンサーシートへの回答)20% 期末テスト(レポート形式、提出は原則として manaba を通じておこなう(不具合などがあれば、事前に相談すること)。課題は授業に関わることから任意に選択する。字数指定無し。自作ノート類の持ち込み可)80%	

科目コード		曜日	時限	科目名	担当教員	
43		地域ビジネス論	《時限》	地域ビジネス論	曾根 秀一	
科目概要	中小企業は、その経営規模のために、大企業とは異なる独自の経営課題と経営機会を持っている。具体的には、大企業に比べて資金調達が不利となる一方で、機敏性・専門性を発揮して新たな市場機会が獲得できること等が指摘されている。この講義では、このような中小企業独自の経営課題と経営機会について、様々な観点から理解を深めることを目的とする。さらに、新分野進出や新製品開発などの点で存在感を示す中小企業の事例を紹介し、将来の展望などについても論じる。					
学修到達目標	a)中小企業の定義や現状を説明できる。 b)中小企業の経営課題や経営機会を理解できる。 c)存在感を示す中小企業の事例を理解し、説明できる。 d)経営学の基礎を理解し、説明できる。 e)経営学の地域ビジネス論に関連した理論を理解できる。 f)地域における有効な戦略について理解できる(応用) g)地域に根差した中小企業経営の将来を展望できるようになる(応用) h)事例と理論の融合、実践を考え、理解できる(応用)					
授業の方法	各回の授業において「講義」を行う。 講義は、画像やビデオなどのビジュアル資料を用いて行う。 日本の地域、経済の活性化を担っていく存在として、近年、中小企業やベンチャー企業、ファミリービジネス、老舗企業などに注目が集まっているため、本講義では、企業経営の歴史的な発展過程についても触れる。経営史的な視点についても理解を深め、ファミリービジネス、老舗企業といった中小企業経営の特質についても論じていく。「理論・概念」と「実例」の対応関係に留意し、補足資料やビデオ教材も用いる。 一部の講義回ではオンデマンド型遠隔授業を行う(授業計画を参照してください。ここに記載したオンデマンド型遠隔授業の回は、授業の進捗状況等により変更になる可能性があります) 演習課題やレポート課題の提出等に manaba を使用することがある。					
授業計画	1.オリエンテーション:地域ビジネス論とは 2. 中小企業の定義、歴史、企業経営の全体像 3.経営学の全体像、様々な視点からみる地域に根差した中小企業論 4.企業の経営管理、会社種類、株式会社 5.企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 6.企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり 7.ベンチャー企業:経営戦略とマーケティング(オンデマンド型遠隔授業) 8.ファミリービジネス:企業の大半を占める企業体、地域に根差した企業 9.老舗企業:長期存続について考える 10.地場企業:地域を支える企業、産業 11.マクロ組織のマネジメント				テキスト	教科書は使用しない
					参考文献	安田武彦監修(2013)『中小企業白書を読む』、同友館。 渡辺・小川・黒瀬・向山著(2013)『21 世紀中小企業論』(第 3 版)、有斐閣。 ファミリービジネス学会編(2016)『日本のファミリービジネス』中央経済社。 加護野忠男・山田幸三(2016)『日本のビジネスシステム:その原理と革新』有斐閣。 加護野忠男・吉村典久編(2021)『1 からの経営学』(第 3 版),碩学舎

令和7年度後期

	12.マイクロ組織のマネジメント 13.特化した中小企業 14.事例を通じた地域ビジネス 15.事例と理論の融合: 中小企業、ファミリービジネス、老舗企業から考える	注意 事項 上の	経営学に関する基本的な理解をふまえて、地域ビジネスや中小企業経営への関心や視点を養って欲しい。
授業 時間 外の 学習	1.オリエンテーション: 地域ビジネス論とは 2. 中小企業の定義、歴史、企業経営の全体像 3.経営学の全体像、様々な視点からみる地域に根差した中小企業論 4.企業の経営管理、会社種類、株式会社 5.企業とインプット(金融資本・労働)市場との関わり 6.企業とアウトプット(製品・サービス)市場との関わり 7.ベンチャー企業: 経営戦略とマーケティング(オンデマンド型遠隔授業) 8.ファミリービジネス: 企業の大半を占める企業体、地域に根差した企業 9.老舗企業: 長期存続について考える 10.地場企業: 地域を支える企業、産業 11.マクロ組織のマネジメント 12.マイクロ組織のマネジメント 13.特化した中小企業 14.事例を通じた地域ビジネス 15.事例と理論の融合: 中小企業、ファミリービジネス、老舗企業から考える		
評価 の 方法 ・ 基準	毎回の授業後レポート(30%)、中間レポート(20%)、学期末試験の成績(50%)を通じて評価します。中間レポート課題の提出期限については課題の発表時に連絡します。 上記の評価方法を変更する必要がある場合は、速やかに連絡します。 秀(a～hのすべてを達成した): 100～90点 優(a～hのうち7項目を十分に達成した): 89～80点 良(a～fのうち6項目を十分に達成した): 79～70点 可(a～fのうち5項目を達成した): 69～60点 不可: 59点以下		